

第7回キャリア教育アワード
エントリー事例集



2017年1月

経済産業省では、子どもたちに対し働くことの意義や学びと実社会とのつながりを伝え、社会的・職業的自立に向けた力を育成する「キャリア教育」の取組を推し進めています。

この一環として、産業界による優れたキャリア教育支援活動の取組とその効果を広く社会で共有し、こうした活動を奨励・普及・促進することを目的として、企業や経済団体等による教育支援の取組を公募し、優秀と認められる事例を表彰する「キャリア教育アワード」を実施しています。

審査部門は、各企業・団体の取組の主体により、①大企業の部、②中小企業の部、③コーディネーターの部で構成しており、審査委員会による審査を経て、大賞（経済産業大臣賞のうち総合的に最も優れた企業・団体等）、最優秀賞（経済産業大臣賞）、優秀賞、奨励賞を選出します。

2016年度は計37件の応募がございました。本事例集にて、各企業・団体の取組概要をご紹介しますので、ご参考にしていただければ幸いです。



（ご参考）「キャリア教育アワード」の審査基準

■大企業の部・中小企業の部

継続性	長期にわたり運営していくため、継続的に改善するサイクルが実行されているか
普及性	企業・団体の活動規模に応じた展開をしているか
汎用性	教育ニーズに対応できる取組となっているか
企画性	プログラムの内容に工夫があるか（目標設定、授業の進め方等）
キャリア教育としての教育効果	授業内容が、社会的・職業的自立に向けた力の育成支援となっているか

■コーディネーターの部

有効性	職業的自立に向けた教育効果の向上に貢献する支援サービスを提供しているか
支援実績	数多くの企業・学校・若者に支援サービスを適用しているか
産学関係構築への貢献	産学関係者が相互理解を深め、協働するための関係構築に貢献しているか

※審査基準の各項目の詳細内容は、巻末の〈参考資料〉第7回「キャリア教育アワード」募集要項をご覧ください。

目次

経済産業大臣賞（最優秀賞）受賞事例

大企業の部



<大賞※> 株式会社博報堂	4
---------------------	---

※経済産業大臣賞受賞者のうち、総合的に最も優秀と認められる企業・団体等

中小企業の部

認定特定非営利活動法人キーパーソン21	6
---------------------------	---

コーディネーターの部

一般社団法人九州インターンシップ推進協議会	8
-----------------------------	---

各部門のエントリー事例 応募総数 計 37 件

<大企業の部> 応募数 計 15 件

<優秀賞> キヤングループ内8社	12
<優秀賞> 富士通株式会社	13
<奨励賞> 東京ガス株式会社	14
<奨励賞> 大日本住友製薬株式会社	15
JAIMA サマーサイエンススクール実行委員会	16
株式会社CBCテレビ	17
株式会社島津製作所、株式会社島津ビジネスシステムズ	18
株式会社ダスキン	19
コニカミルタ株式会社	20
広島ガス株式会社	21
テュフ ラインランド ジャパン 株式会社	22
公益社団法人全国求人情報協会	23
日本生命保険相互会社	24
東京ベイ信用金庫	25

＜中小企業の部＞ 応募数 計 17 件

＜優秀賞＞ 株式会社アトリエテンマ	26
＜優秀賞＞ 一般社団法人ドリームマップ普及協会	27
＜奨励賞＞ 東京商工会議所	28
＜奨励賞＞ 徳島県信用保証協会	29
＜奨励賞＞ 有限会社せれくと	30
株式会社スリーハイ	31
大阪府中小企業家同友会	32
熊日宮原販売センター	33
一般社団法人 Fora	34
一般社団法人日本ゆめ教育協会	35
公益社団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	36
特定非営利活動法人じぶん未来クラブ	37
東京都社会保険労務士会 臨海統括支部 キャリア教育研究会	38
株式会社マグエバー	39
フジコーポレーション株式会社	40
エヒメ・ベンチャー・ネットワーキング	41

＜コーディネーターの部＞ 応募数 計 5 件

＜優秀賞＞ 特定非営利活動法人新宿環境活動ネット	42
＜奨励賞＞ 特定非営利活動法人グローバル人材開発センター	43
株式会社アジアリザレクション	44
特定非営利活動法人 WEBREIGO	45

＜参考資料＞

経済産業省によるキャリア教育への取組～キャリア教育コーディネーターの育成支援	10
第7回「キャリア教育アワード」募集要項	46
「キャリア教育アワード」受賞企業・団体一覧	51

大賞・経済産業大臣賞（大企業の部）

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社博報堂</p>
<p>プログラム名</p>	<p>博報堂オリジナルの教育プログラム「H-CAMP」 （①OPEN-CAMP、②企業訪問-CAMP、③外部とのリレーション）</p>
<p>活動の内容 （概要）</p>	<p>2012年の秋から冬にかけて、教育関連NPOや中学校・高等学校の教員の方々との対話を行う機会を得て、教育を取り巻く環境変化やキャリア教育ニーズに応えるため、2013年に博報堂はオリジナルの教育プログラム「H-CAMP」を発足させた。多くの教育関係者にヒアリングを行い、博報堂の創業理念や人材育成方針・ワークスタイルなどが、求められているニーズに合致すると判断しスタートした取り組みである。</p> <p>博報堂のビジネスの中核能力は「クリエイティビティ」である。複雑化する課題を解決し、新しい価値を創造し続けるためには、多様な個性を持つ人材づくりと創発の力によって生み出されるクリエイティビティが必要となる。博報堂が推進するキャリア教育の在り方を考えた時、「粒違いな個性の大切さ」と「お互いの個性を尊重しあうチームの力」を学生や若者に体験してもらい、クリエイティビティを学べる場を設けることがあべき姿との結論に至り、「H-CAMP」を発足させた。</p> <p>「H-CAMP」は、この博報堂のクリエイティビティを、体験を通して楽しみながら実感することを目指した3つのプログラムから構成され、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」のすべてに高い効果をもたらすことができるよう設計している。</p> <p>①OPEN-CAMP：第一線で活躍している博報堂社員（プランナー、コピーライター、デザイナー等）が講師を務める、個人参加型の本格的な体験ワークショッププログラムである。</p> <p>②企業訪問-CAMP：学校のキャリア教育ニーズに応えるプログラムである。個々の学校のニーズや訪問する生徒の状況に合わせ、個別に内容変更をしながら対話型・体験型の場づくりを行っている。</p> <p>③外部とのリレーション：学校、NPO、自治体と連携しながら個別プログラムの開催や講義協力を行っている。</p>
 <p>OPEN-CAMPの開催写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上と左下の写真はグループごとの話合いの様子 ・講座によってはパソコンを使って情報収集を行うこともある。 ・講座の最後にはグループや個人での発表の時間も必ず設けている。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・上は企業訪問-CAMPの開催写真 ・左下は企業訪問-CAMPの発想体験ワークの様子 ・下中央の写真は同郷社員からの仕事紹介の様子 ・右下は、外部とのリレーション（ゆめっと@博報堂）の様子

活動の内容 (詳細)	「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など
	「H-CAMP」事務局には専任担当者1名とアシスタント1名の2名体制で活動しており、事務局担当者は社員ネットワークと教育関連知見のハブ機能を担い、ニーズや状況に合わせて最適な人選やプログラムの設計を行っている。また、取組に対する経営層の関心は高く、経営層に現状、課題、今後の取り組み施策等について分析や整理、提案を行い、PDCAサイクルを推進している。H-CAMPに参加した社員や参加者からの知見や情報は、連携する社員や外部団体に随時共有して新たなプログラムづくりに活用しており、提供するプログラムの幅が広がり、進化を続けている。
	「普及性」についての具体的な取組、工夫している点など
	①OPEN-CAMP 2013年8月からスタートし、2016年10月23日現在で30回の講座を開催。1年間の開催は10回程度であり、毎回10から20名が参加している。
	②企業訪問-CAMP 2016年度は81校(来社生徒数1050)となり、アクティブ・ラーニングを重視した内容が評価されリピーター校が増え、学校間の口コミなどで認知が広がっている。
	③外部とのリレーション ①と②の活動を継続することで知見が蓄積され、NPOや地方自治体、学校からの個別の要望やリクエストに応え、幅広い対応の受け皿としている。
	「汎用性」についての具体的な取組、工夫している点など
	博報堂らしいキャリア教育のテーマとして、①1人1人の個性を育むきっかけをつくる、②対話を重視する、③アウトプット機会を必ずつくる、④多様でユニークな博報堂社員との交流機会をつくる、⑤お互いに学びあう、を掲げ、H-CAMP参加者や先生などからリアルな現状や課題をうかがい、さらなるブラッシュアップを図っている。
	「企画性」についての具体的な取組、工夫している点など
H-CAMPは博報堂のビジネスの中核能力である「クリエイティビティ」を、体験を通して楽しみながら実感してもらうことを目指したプログラムであり、全体を通して、「人間関係形成・社会形成能力」や「イノベーション」を目標としている。	
①OPEN-CAMP 中学生・高校生が個人で参加できる本格的な発想体験プログラムであり、デザイナー、コピーライター、プランナーなど最前線で活躍している社員が講師を務める。	
②企業訪問-CAMP 全国の中学校・高等学校からの訪問依頼に応え、できるだけ同郷の社員と生徒との対話や生徒同士の対話(話し合い)の機会をできるだけ持つようにしたプログラム。	
③外部とのリレーション 連携団体のニーズをうかがい、ワークショップだけでなく、講演やダイアログ、社員からの体験談紹介などを組み合わせたプログラムづくりを行っている。	
「キャリア教育としての教育効果」についての具体的な取組、工夫している点など	
異なる考え方や価値観を理解することの重要性や受け入れたり許容したりする心のあり方を学ぶ機会となり、他者の斬新な発想力や情報力、志の高さを目の当たりにして、「悔しさ」と「焦り」を芽生えさせる参加者もいる。他者と話し合ったり他者の考え方を知ったりすることで、自分の価値観や将来についてたくさんの刺激を受けられるようになっている。	

<審査委員からの評価コメント>

- 教育界へのヒアリングから得た教育ニーズと自社の得意分野である「クリエイティビティ」を活かした総合型のプログラムを広範な学生に提供し、経営トップの承認の下で、グループ会社も含めて全社を挙げて取り組んでいる大規模なキャリア教育。
- 関心の高い生徒・学生を対象にしたものから、多くの参加者を募るものまで多彩なプログラムを用意し、首都圏のみならず、地方圏の自治体や学校との連携も図り、実施回数も多い。
- クリエーターが講師となり生徒・学生の自由な発想を大事にしている点は、学校での指導で積極的に関わってこられなかった部分であり、クリエイターからのアドバイスは、生徒・学生が働くためのヒントとなる。
- コミュニケーション能力や発想力、課題解決型の思考力など、社会人基礎力として必要な能力を醸成するプログラムとなっている。また、自分の特徴、夢や目標、好きを仕事にするなど、自己理解やキャリア形成に直接関わるものが多く、生徒・学生が自ら職業選択などを考える好機となっている。
- 専任担当者を置くなど、運営体制がしっかりしており、実施前の準備、実施後のフォローアップ調査、評価も十分行われている。

経済産業大臣賞（中小企業の部）

企業・団体名	認定特定非営利活動法人キーパーソン21
プログラム名	<p>「夢！自分！発見プログラム」シリーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演プログラム「おもしろい仕事人がやってくる!」：約50分 ・ワークショップ1「すきなものビンゴ&お仕事マップ」：約110分 ・ワークショップ2「コミュニケーションゲーム」：約110分 ・ワークショップ3「かっこいい大人ニュース」：約210分 ・少人数制ワークショップ「個別アクションプログラム」：約240分/2日間
活動の内容 (概要)	<p>キーパーソン21という言葉には「21世紀を担う子どもたちの心の扉のかぎを握る人」という意味を込めており、身近なところでいきいきと仕事をして生きている大人たちともしっかりと出会い、社会との接点を持ち、視野を広くもち、自らの未来に思いを馳せて夢や希望や自信がわいてきて、すべては自分自身からはじまるんだ、ということに気づいてくれる人が一人でも増えてほしいとの願いがある。</p> <p>子どもたち一人ひとりが個性や多様性を認め合い「自信をもって、自分らしく生きる力」を育むために、多様な大人が全力で子どもたちの成長を支える活動を行っている。</p> <p>保護者や教師だけでなく、＜主役は子ども、きっかけは大人＞を合言葉に、シニア、社会人、大学生など様々な大人たちと関わることで、子ども一人ひとりが持っている「らしさ」や「特徴」を引き出し、それらを社会とつなげて考えたり、ありのままを認め自信につなげる、独自に開発した「夢！自分！発見プログラム」を展開している。2000年設立以降、実施校/施設は100を超え、35,000人以上の小中高校生がプログラムを受講した。</p> <p>自分の生き方を考え、自立した大人になるプロセスにおいて「自分を知る」「社会を知る」「自立する」ステップが必要である。自分軸（自分らしく選択する力）が無いと、社会を知っても、溢れる情報に何を選擇していいのかわからなくなってしまふ。そこに、第三者である大人が真剣に関わりながら「自分を知る」ステップを踏むことにより、自信を持って、主体的に社会を知り関わる事ができる。同時に「自分を知る」ことは、変化する社会の中で自分らしく生きる力を育む原動力（わくわくエンジンと呼んでいる）を見つけ出す行為でもある。こうして社会と関わりたいと思う意欲と、自分らしく生きる力を育む原動力を発見することで、一人ひとりの主体性を生み出している。</p> <p>2015年度は682名の大人が、3,684名に学校授業のなかでプログラムを届けた。</p>



ワークショップの導入挨拶

気合いを入れて、大人から児童/生徒に挨拶をします。大人の元気さと、このプログラムで児童/生徒と向き合うことへの本気度を伝えます。

児童/生徒には、こんなことも言っていいたいという自己解放を促すため、大人が個性豊かなデモンストレーションを行った後、児童/生徒の取り組みが始まります。



ワークショップ：「すきなものビンゴ&お仕事マップ」

個人ワークの後、チーム対抗で、わくわくすることに関連する仕事を広げていく様子。多いチームでは200個を超えることもあり、児童/生徒の柔軟な思考、発想の豊かさに大人が感心させられます。

このあと、書き出した仕事を踏まえて、個人ワークに戻り、自分とさらに向きあいます。

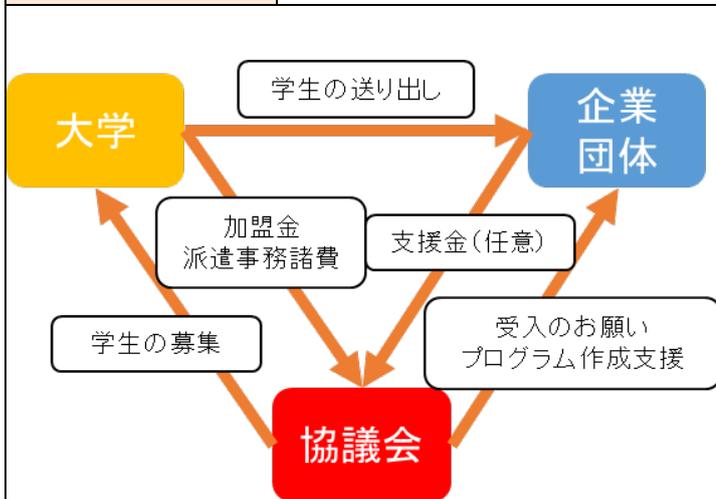
活動の内容 (詳細)	「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など 毎年1校1学年につき、1～2つのプログラムを実施しており、その際にはプロジェクト化してリーダーを配置し、明確な責任のもと、事務局全体で年間のプロジェクトに取り組んでいる。 キーパーソン21の個人会員のうち、各プログラムに参加するための講座受講者が、「わくわくナビゲーター」と称するプログラム提供者として毎年200名程登録しており、これまでに839名が登録している。また、活動を支援する企業のうち、「企業の子ども応援プロジェクト」に参画した企業の社員150名程が、事前の研修を受講してプログラムに参加している。 プログラムの質/効果測定/改善にも努めており、児童・生徒やわくわくナビゲーターによる実施前後の記録や教員による実施後の記録などに基づいて、プログラムの内容、運営面での振り返りを行い、よりプログラムに集中し、学習効果を出すための環境作りに役立っている。
	「普及性」についての具体的な取組、工夫している点など 実施地域は、関東、東海、関西地域で開催し、団体が育成したプログラム提供者がそれぞれの地域で実施する体制を構築し、地方の団体と連携する取り組みも強化している。また、団体が開発し学校の現場で実施している各種キャリア教育プログラムの質を落とすことなく、多くの児童・生徒に提供するための仕組みとして、プログラム提供者を育成するための養成講座(体験・座学・講義を含め全1.5日間)を開講している。
	「汎用性」についての具体的な取組、工夫している点など 学校側の年間スケジュール、総合学習計画を踏まえ、児童・生徒に必要なプログラムの選択と時期目途について擦り合わせを行っている。プログラムは45分授業/50分授業など学校の時間割に合わせており、学校の要望などにより、質問タイムを加えたり、職場内見学を追加するなどして柔軟に対応している。
	「企画性」についての具体的な取組、工夫している点など ワークショップは、一方的に情報を提供するのではなく、保護者でも先生でもない、初めて出会う多くの大人が、真剣に児童/生徒に向き合うという非日常のなかで、児童/生徒自ら考え、第三の大人が伴走する形で関わることによって、自分を知り、自分に可能性を感じ、同時に社会を知り、主体的に社会と関わろうとする意欲の醸成の機会を提供している。 各プログラムは、達成目標などを明確にし、一人ひとりが主役となるようゲーム性要素を盛り込んだアクティブ・ラーニングの手法により提供している。全てのワークショップは、一人ひとりが考えだした自分の発言や書き出したことが答えとなり、全てが受容されるプログラムとしており、社会で活躍する大人によって認められる経験を経て自己承認され、自分とほかの人の違いを知り、認める機会を提供している。
	「キャリア教育としての教育効果」についての具体的な取組、工夫している点など ワークショップ形式でグループが協力して学習し、自分で考えて、自分の言葉で相手に伝えるようしており、その体験の中でプログラム提供者が温かい眼差しで真剣に参加することによって自己承認されることで、自信を持ち主体性が生まれ、今の自分の興味から、自分軸で将来について考えられるようになる。そこに色々な大人が関わることで、社会を知りたいという意欲が醸成され、多様な仕事を認識できるようにしている。

<審査委員からの評価コメント>

- 実施対象校、プログラム支援企業参加企業実績が多く、小中高校生の幅広い年代層を対象に、多数の関係者を巻き込んだ仕組みを整備したプログラム。
- 子供たちを飽きさせない構成となっており、親や教師以外の大人から直接学べる良質なプログラム。キャリア教育の基本的な形となるプログラムを提示しており、児童・生徒のキャリア発達を促すベーシックな形での始動が進められる。
- 「キーパーソン」の名のとおり、多方面との結びつきにより多くのステークホルダーとの連携・協働を広げる仕掛けに特徴があり、学校・学生を持つニーズに合わせた多彩なプログラムが提供され、汎用性も高い。
- 社会と関わるために、「自信をもって、自分らしく生きる力」を育むというアプローチは、近年低下が問題視されている自己肯定感の向上に資する。
- 毎年、確実に実施できるノウハウが蓄積されており、プログラム提供者に対する養成講座も開設されている。
- 多様な大人がいることを知り、主体的に自分の生き方や未来を考えることは児童・生徒にとってよい刺激となり、自分を見つめ、職業理解、自己理解に資する。

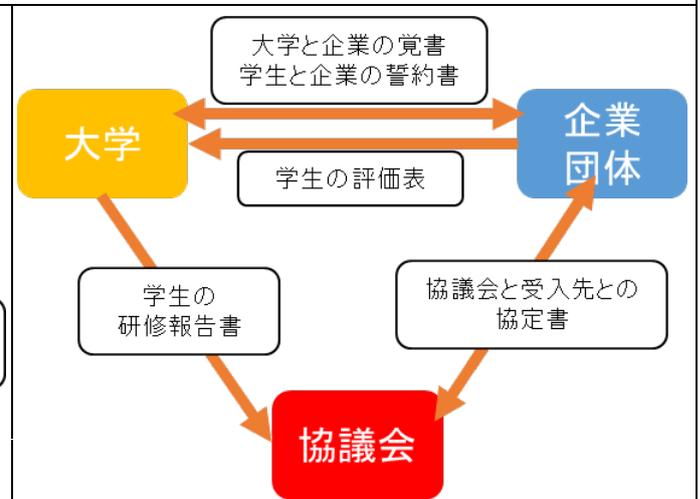
経済産業大臣賞（コーディネーターの部）

企業・団体名	一般社団法人九州インターンシップ推進協議会
プログラム名	インターンシップの推進
活動の内容 (概要)	<p>産学官の連携で経済団体が事務局としてインターンシップを推進。行政予算に依存しない形で運営を行い、地域の大学、企業から幅広く支援をいただいている。受入先は大企業、中小企業、NPO、行政機関、研究機関など多岐に渡る。事前・事後研修会で学生のインターンシップの学びの深化、大学担当者との定期的な意見交換、受入企業へのプログラム作成支援などを行っている。情報交換会の開催や各種セミナーでの講演、新聞広告等を通じての広報活動も行っている。現在、協定書を締結している受入れ先は500の企業・団体を超え、年間を通じて約300の企業・団体でインターンシップを実施中。毎年夏期インターンシップ終了後の10月に大学の学生窓口担当者（就職課やキャリアセンター等）の方々との会議を実施。インターンシップ実施中のトラブル報告、意見交換等を行い、今後のインターンシップ運営における改善に役立っている。国の方針や大学・学生に関する情報を提供したり優良な受入れプログラム事例を共有し、各企業における受入れプログラムの作成支援を実施し、実習内容の質の維持・向上を図ることで、より教育効果の高いプログラムとなるよう留意している。担当者会議と情報交換会では企業・大学双方のアンケート結果を公表し、インターンシップ推進における産学の相互理解に努めている。</p>



【支援・連携体制】

当協議会から企業・団体等へ受入の依頼を行い、学生の受入体制を確保し、大学へ学生の募集を行う。マッチングは事務局においてより公平を期すため機械的なルールに乗っ取り実施。その後学生を送り出す。大学からは加盟金とマッチング決定一人当たり1万円の派遣事務諸費、企業からは任意の支援金をいただき、運営費に当てている。



【教材・ツール、手法】

学生のインターンシップ実施において様々な書類を交わす。

実施前には協議会、大学、受入先の3者で協定書、覚書、誓約書を交わし、責任体制の明確化をする。実施後には受入先から大学へ学生の評価表を送る。単位認定されている大学では評価の参考となる。大学から協議会へ学生の記入した研修報告書を提出してもらい、学生の満足度の調査や受入先へのプログラム改善などに役立てる。

活動の内容 (詳細)	「有効性」についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>学生向け事前・事後研修会を開催している。事前研修会はインターンシップに参加するにあたっての心構え・マインドセットや基本的なビジネスマナー等を指導する。また、他大学生との交流を通じてのワークを行い他者とのコミュニケーションを図ったり、インターンシップに参加する目的意識を形成することを狙いとしている。夏期に3回、春期に2回を100～300名規模で開催中。事後研修会ではインターンシップでの気づき・学びの振り返りを行い、その経験を今後の学生生活に活かすことができるように指導を行う。他大学生や社会人とのワーク・発表を通して、インターンシップの経験を確実に根付かせることを狙いとしている。夏期・春期共に1回を100～350名規模で開催。また、約20～50名のインターンシップ受入企業等から社会人にお越しいただき、参加学生1人1人へのアドバイスを行っていただいている。</p> <p>4～7週間の中期実践型インターンシップを実施。長期間かつ深い業務に携わることで、社会人基礎力などの汎用的能力の向上、専門教育の実質化を目指して取り組んでいる。当協議会のコーディネーター（専門人材）が学生のフォローとインターンシッププログラムの作成等を行っている。</p>
	「支援実績」についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>登録約540社中、毎年春夏合計約300社へ30大学から約1000名ほどの学生をインターンシップへ送り出している。より多くの学生にインターンシップを経験してもらうため公平で機械的なマッチングルールに基づき、統一したスケジュールでマッチングを行っている。</p>
	「産学の関係構築への貢献」についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>毎年、加盟大学と受入企業・団体双方へアンケートを実施。その結果を大学担当者会議（大学の就職課やキャリアセンター等担当者が出席）と受入企業・団体情報交換会（受入企業担当者が出席）にて公開、学生を送り出す側と受け入れる側の相互理解促進に役立てている。</p>

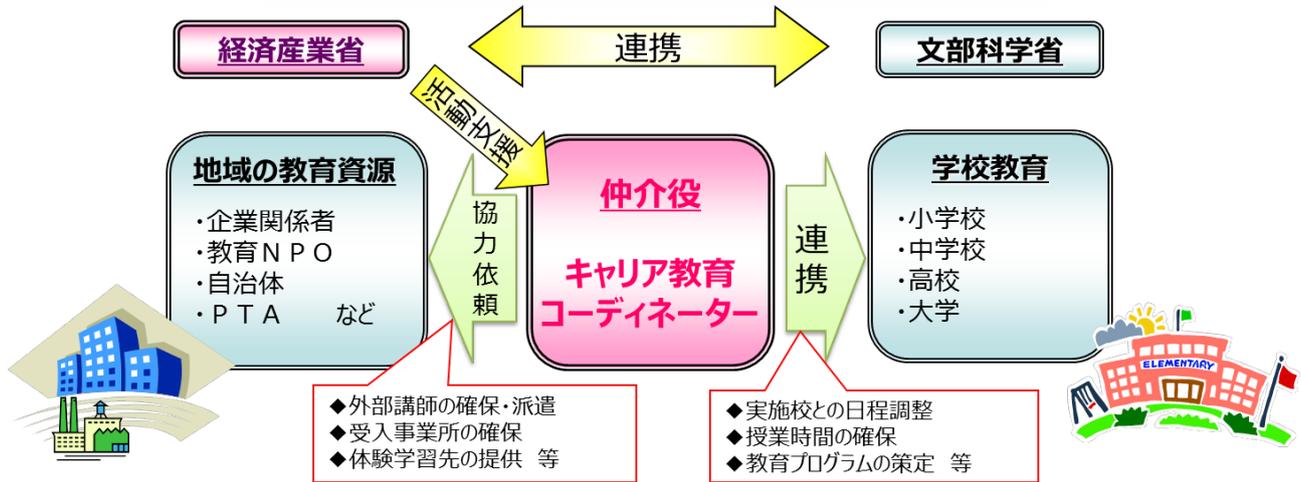
<審査委員からの評価コメント>

- 行政予算や補助金に依存せずに、大学や企業からの支援で自立した質の高いインターンシップ支援の在り方を確立しており、他の地域でも運用しやすいコーディネート例。地域の経済産業に貢献できる人材づくりは地域創生の基本であり、こうした取り組みを全国に広げるためのモデルとなる。
- インターンシップの重要性や教育的価値がより認識されるなか、組織的に、効率的にそのコーディネートを進めており、地域の大学や企業・事業所に根差した形で、統一したスケジュールにより域内の学生をインターンシップに送り出す体制を構築している。
- 手間のかかる大学生のインターンシップ事業を長年続け、多数の関係者に事業趣旨の浸透を図り、大学生、短大生のインターンシップ実績ともに、企業数学生の参加者数が多数にのぼっていることは評価できる。
- 事後研修会においてインターンシップで得た気づきや学びの振り返りを行い、経験を学生生活に活かせるよう指導を行っている点は、インターンシップの意義を良く理解している。
- 事前事後研修会、受入れ企業等からのアドバイス、コーディネーターのフォローやプログラムの作成などきめ細かい仕組みを構築。

経済産業省によるキャリア教育への取組 ～キャリア教育コーディネーターの育成支援～

地域・社会の持つ教育資源の活用のため、地域・社会と学校との仲介役として「キャリア教育コーディネーター」の育成を支援（平成17～22年度）。
キャリア教育コーディネーターの育成・認定等を担う民間団体として平成23年1月に「一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会」(<http://www.human-edu.jp/ccec>)が設立され、現在約270名のコーディネーターが全国で活動を行っている。

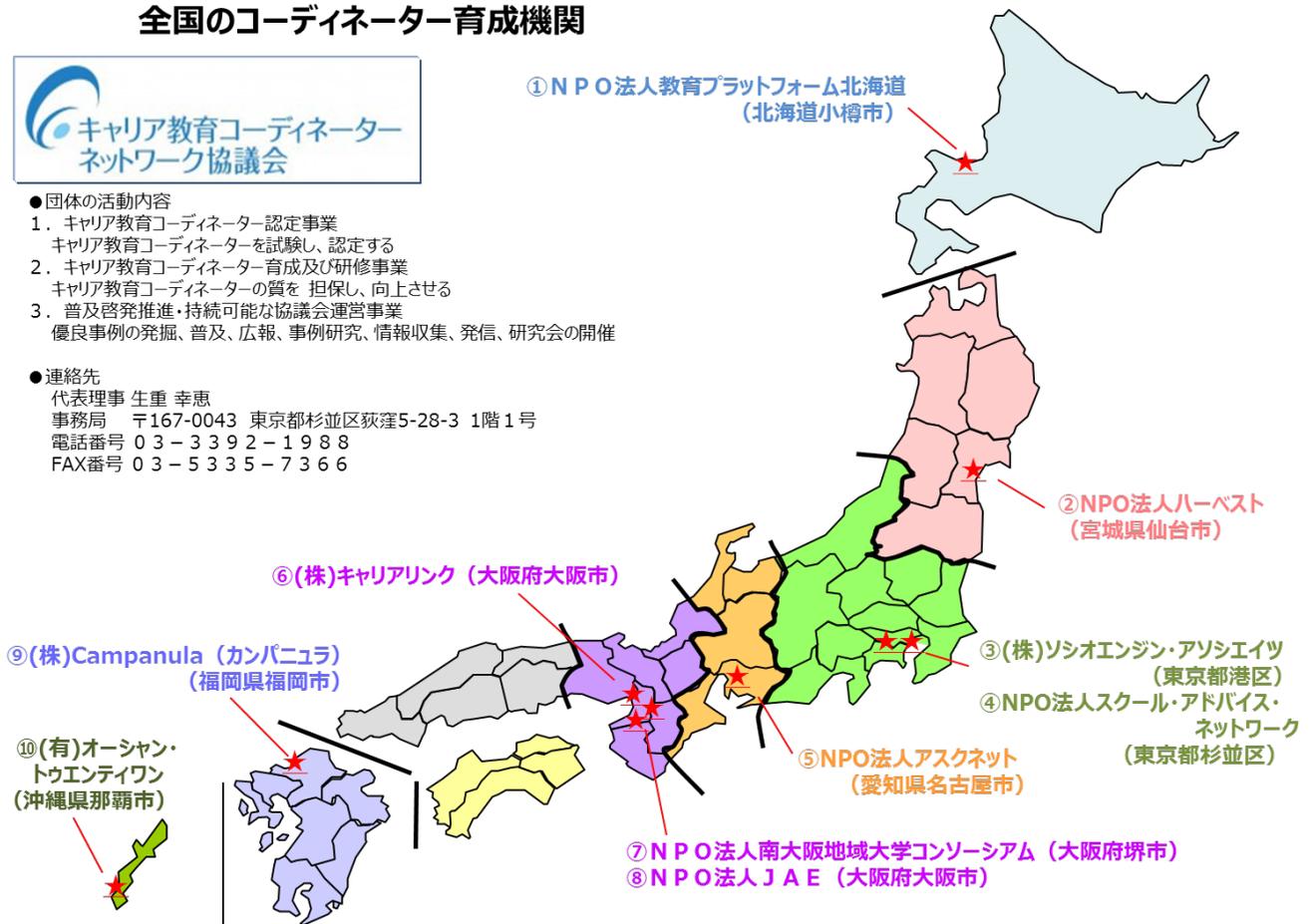
「コーディネーター」を置いたキャリア教育支援のイメージ



(参考) キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会認定の 全国のコーディネーター育成機関



- 団体の活動内容
 - キャリア教育コーディネーター認定事業
キャリア教育コーディネーターを試験し、認定する
 - キャリア教育コーディネーター育成及び研修事業
キャリア教育コーディネーターの質を担保し、向上させる
 - 普及啓発推進・持続可能な協議会運営事業
優良事例の発掘、普及、広報、事例研究、情報収集、発信、研究会の開催
- 連絡先
代表理事 生重 幸恵
事務局 〒167-0043 東京都杉並区荻窪5-28-3 1階1号
電話番号 03-3392-1988
FAX番号 03-5335-7366



各部門のエントリー事例

- 大企業の部
- 中小企業の部
- コーディネーターの部

大企業の部 優秀賞

企業・団体名	<p>キャノングループ内8社 キャノン(株)／キャノンマーケティングジャパン(株)／キャノンプレシジョン(株) ／キャノン化成(株)／長浜キャノン(株)／大分キャノンマテリアル(株)／日田 キャノンマテリアル(株)／宮崎ダイシンキャノン(株)</p>
プログラム名	「モノの『とくちょう』を利用してリサイクル ～理科は地球を救う～」
活動の内容 (概要)	<p>キャノングループは「共生」を企業理念としている。こうした社風のもと、環境問題(ゴミや資源問題)に対する企業の取り組みを将来の世代に伝えたいとの思いから、2011年にこの出前授業を開始した。学生が、明るい未来を担う上での課題として環境問題を受け止め、自分の力でそれを解決できると気付けるように、全国の小学校を舞台に活動している。</p> <p>この授業では、環境問題やリサイクルの要点を学習後、リサイクル実験を行う。磁石につく、水に浮く/沈むなど、モノの特徴を上手く利用することで混合材料が分けられることを体感できる。実験後、キャノンのリサイクルラインをビデオで見学し、学校で習う知識が実社会の企業活動と直結していることを知る。</p> <p>また、この授業では、アクティブ・ラーニングの手法を多く取り入れ、学生が、考える・相談する・知識を活用する等の汎用能力を培う機会を多く設けている。</p> <p>中学校での実施も要望されたため、来年1月より、内容の高度化をはかって中学校へも活動の場を広げる予定である。</p>



授業の様子1
実験前の講義(環境問題、リサイクルについて)



授業の様子2
リサイクル実験

＜審査委員からの評価コメント＞

- 90分というコンパクトな枠組みで、企業社員によるリサイクル実験と企業でのリサイクルラインのビデオ学習を組み合わせたプログラムにより、生徒が環境に配慮した企業の生産活動、社員の仕事、学校で学ぶ知識との関わりを学習することができ、企業理解、職業理解につながっている。
- 環境問題に特化して学校が取り上げやすいテーマをグループ全体で全国的に取り組んでいる点を評価。「講師認定制度」などを設けて、教える社員のスキルアップを図ることで、持続性を確保している。
- 講師認定制度や講師研修会で知識を得た社員からの「課題の提示」「思いの呼びかけ」等は大人との隔たりのある児童にとって、価値観形成の大きなヒントとなる。
- 授業で学ぶことが、社会生活とどのように関連しているのか実験を通じ意識できるため、学習意欲の向上につながると思われる。また、4～5人の少人数での実験のため、生徒同士が自然と対話しながら主体的に課題や解決策を考え、協働し、個々の児童がグループ内での役割を担えるようにしている。

大企業の部 優秀賞

企業・団体名	富士通株式会社
プログラム名	<p>環境出前授業</p> <p>① 「将来のシゴトとエコ」～キャリア教育×環境教育～</p> <p>② 「地球 1 個分で暮らすために」～エコロジカル・フットプリントから考える～</p> <p>③ 「パソコン分解を通して学ぶ私たちの3R」</p> <p>④ 「環境カードゲームMy Earth を通して学ぶ地球環境問題」</p>
活動の内容 (概要)	<p>富士通グループは、未来を担う子供たちに「年々深刻化する地球環境問題とその原因を知ってもらい、解決するために出来ることを考え、行動する力を養ってもらう」ための支援として、全国の小中学校を対象に「環境出前授業」を実施している。</p> <p>「将来のシゴトとエコ」は、環境に配慮した現在の仕事を紹介するだけでなく、将来にわたる問題解決を取り入れた出前授業である。「将来仕事に就いた後も自分たちにどんな環境活動ができるか?」という長いスパンで環境問題の改善を考えることに重きを置いた授業構成としている。タブレット PC の開発・製造から販売までに関わる4つの仕事(研究、設計、製造、販売)とそれに携わる人の映像教材で、各工程で実施している環境に配慮する行動を紹介。その後、自分がなりたい職業を通して「どんな環境活動の取り組みができるか?」を考える。なお、このプログラムの特徴は、一人1台のタブレット PC を使って、子供たちが講師の質問に答えたり、他の人の意見を比較したりしながら授業を進めることである。積極的に発言できない子供たちも主体的・対話的に学ぶことを実現している。このプログラムを含む全ての出前授業は、当社社員がスタッフとなって授業を運営し、講師には、「養成講座」を受講しOJT 研修を経て、試験に合格した社員を派遣している。</p>
	
<p>「将来のシゴトとエコ」や「地球 1 個分で暮らすために」では、一人1台のタブレット PC を使って、講師の質問に答え、他の人の意見を比較しながら授業を進行する。タブレット PC に書かれた意見は、スクリーンへ投影され、教室全体で共有できる。出前授業であっても、参加するすべての児童・生徒が主体的・対話的な学習をすることができるようにしている。</p>	<p>「将来のシゴトとエコ」では、児童の考えた「将来なりたい仕事を通じて環境問題をどのように解決するか」について、富士通社員がコメントを付与。優秀な回答内容は、ホームページ上で公開し、児童・生徒の学習意欲の向上を図っている。</p>

<審査委員からの評価コメント>

- 学校単独では実践しづらい内容を学習指導要領に沿って学年ごとに焦点化し、学習者に気付きを提供できる取組となっている。また、環境教育を基盤としてキャリアを考えられる取組で、小学生から中学生までの発達段階に合わせた継続的な指導ができる。
- 一人一台のタブレット PC を活用してグラフに意見が反映され、視覚的に他者との意見を比較できるので、発言が苦手な生徒も参加しやすい。
- 講師養成講座によりプログラムのレベルを確保し、複数のプログラムを用意している。

大企業の部 奨励賞

企業・団体名	東京ガス株式会社
プログラム名	『東京ガス学校教育支援活動』 (1) 学校への出張授業 (2) 先生向け研修会 (3) エネルギー・環境に関する情報提供
活動の内容 (概要)	<p>東京ガスは、エネルギーに携わる企業として“未来を担う子どもたちにエネルギーと環境の大切さを伝えたい”という想いのもと、2002年より学校教育支援活動を実施している。当社員が行う出張授業では、エネルギーと環境の関わりについて教科や単元に合わせて児童生徒に直接訴求し、先生向け研修会では、エネルギー・環境問題を授業で扱う動機づけと支援を行うことにより、教員がエネルギー・環境問題を主体的に扱う授業の普及拡大に努めている。</p> <p>2011年の震災を機に、生きるうえでエネルギーは不可欠であることが再認識され、教育現場におけるエネルギー教育への関心も高まりを見せている。現在、当社では「エネルギーを知ることはより良く生きることである」という考えに基づきこの活動を推進しており、エネルギー・環境問題は「自ら問題を発見し答えがひとつに定まらない課題の解を見出す諸能力」の育成、すなわち次期学習指導要領の柱のひとつであるアクティブ・ラーニングの実践に適したテーマのひとつと考えている。また、エネルギー・環境教育は、教科横断的かつ体系的な授業編成が可能であり、カリキュラム・マネジメントの観点からも有効な教育手法と捉えている。</p> <p>エネルギー基本計画に記述された「エネルギー教育の推進」は、持続可能な社会の実現とは不可分であり、「次世代に対するエネルギー環境教育を通じた“生きる力の育成”への貢献」という社会的責務の一翼を、今後も担い続けていきたい。</p>



■出張授業「暮らしを支えるエネルギー」
2015年宇都宮市内小学校での出張授業の様子。



■教員の民間企業研修(10年経験者研修)・グループワーク
3日間の研修の最終日に行う「授業プラン作り」では、エネルギー・環境問題について子どもたちにどう伝えるか考えます。(2015年8月)

<審査委員からの評価コメント>

- 首都圏を中心に10年以上続けられており、長年の経験でコンテンツのブラッシュアップが図られ、更なる改善も期待される。身近な素材から気づきを促すプログラムになっている。
- 児童・生徒向けに限らず先生向け研修会を実施しており、広く教育的支援を進めるプログラムとなっている。学校教育と広くコラボレーションできる内容であり、環境教育を手がかりにキャリア教育に切り込んでいる。
- エネルギー・環境問題と履修内容を組み合わせ、実験等を積極的に実施することで、学習意欲を高め、「考える」「伝える」ことを効果的に学習できるプログラムとなっている。
- 児童・生徒の理解を促すために、体験型プログラムを導入し、学習意欲の向上を目指す工夫が見られる。

大企業の部 奨励賞

企業・団体名	大日本住友製薬株式会社	
プログラム名	「科学技術と人の幸せ」	
活動の内容 (概要)	<p>【背景】 生命関連企業である製薬会社の役目として、次世代を担う中高生に『いのち』の大切さを考える」時間をもつ機会を与えたいと考えたため。</p> <p>【目的】 生命や倫理など、正解が一つではないテーマに対して、他人の意見や、自らと異なる考えを受け入れながら自分だったらどう判断するのかを考え、豊かな感性と優しさを持って自分なりの意見を導き出す「道徳的実践力」の育成を目指す。</p> <p>【方法】 当社のプログラムは学校教員と当社社員講師とのコラボレーション型授業を進める。授業進行のプロである教員が基本授業を進め、社員が製薬会社ならではの視点で解説を行う。</p> <p>最新の科学的な視点で遺伝子を調べることで何かわかるか、わかってしまうのか事例をあげて紹介する。その後、遺伝子検査にまつわる架空の動画「未来のカルテ」を視聴。内容はフィクションで、妻と二人の子どもを持つ40代男性が将来、不治の病になるか判別する遺伝子検査を受ける or 受けない を悩む内容である。生徒は、主人公になった立場で自分だったら検査を受ける or 受けない をメリット、デメリットから考え、自らの答えを導き出す。グループになって自分の意見を伝え、他人の意見を聴く。自分とは異なる意見も受け入れ、答えを出す。</p> <p>最後に、社員が生徒の発表に対してコメントし、この先の人生で『いのちの選択』を迫られた際、様々な視点で物事を考え、他人の意見も聴き、その時最良の答えを導き出してほしいことを伝える。</p>	
	<p>遺伝子検査を「受ける」か「受けない」の個人の答えを出している瞬間。手を挙げているのは「受ける」と判断した生徒。一斉に挙げさせることで時間の短縮を図る。</p>	
	<p>自分なりの答え（遺伝子検査を「受ける」か「受けない」）を出した後、グループになって他人の意見を聴く。その際に講師が様々なケースを生徒に問いかけている様子。</p>	

<審査委員からの評価コメント>

- 「遺伝子検査を受ける、受けない」という家族の葛藤を動画化して中高生に見せ、多様な意見を引き出すアクティブ・ラーニングの手法が採られており、この年代に「いのち」を考えさせることは重要であり評価。
- 社員は業務としてアサインしており、製薬会社としての特色を活かして、「命の大切さ」という視点からキャリア教育を進めている。
- 生命倫理に関わる難しいテーマで教育支援に関わる点は挑戦的であるが、生き方を考える上で、生命尊重は道徳的にも重要な価値がある。生徒の発達段階により難しい側面もあるが、指導を進めなければならない内容。

大企業の部

企業・団体名	JAIMAサマーサイエンススクール実行委員会
プログラム名	一般社団法人日本分析機器工業会(JAIMA)主催 中・高校生向け分析機器体験講習会「JAIMA サマーサイエンススクール」
活動の内容 (概要)	<p>近年、日本人のノーベル化学賞、物理学賞、医学・生理学賞受賞者が多数輩出し、日本の基礎研究が国際的に高い評価を受けていますが、その一方で、将来を担う若者の理系離れが危惧されています。幼い頃、誰もが一度は興味を持つ宇宙の不思議や自然界の摂理に対する興味や素朴な疑問は、多忙な生活の中で薄れていってしまうようです。JAIMA サマーサイエンススクールは、中高生にこうした自然界への興味や疑問をより身近に感じてもらうために、分析機器を自分で操作して身の回りにある試料を分析してもらう企画です。</p> <p>分析機器の体験講習会「JAIMA サマーサイエンススクール」を2012年7月より、毎年日本科学未来館で開催しています。この催しは、中学・高校生のみなさんに実際に分析機器を操作体験してもらうことで、様々な産業を支える基盤となっている分析機器・技術について理解を深め、科学技術への関心を高めてもらうことを目的としています。</p>



JAIMA サマーサイエンススクール開催要旨説明の様子。

学習者64名に対して、実施要綱を説明しているところです。これから1グループ3~4名に分かれて、分析機器の体験学習が開始されます。どの分析機器が体験できるか、学習者も緊張と期待感があふれています。



グループ学習の様子。

JAIMA サマーサイエンススクール協力企業による「卓上電子顕微鏡」の学習です。試料は「葉や花粉」など学習者が親しみやすいものに特化しています。学習者は「大学の研究者」と同じように、卓上顕微鏡を自由に操作する事が出来ます。科学に対する興味を一層誘う学習内容となっています。

大企業の部

企業・団体名	株式会社CBCテレビ
プログラム名	CBCテレビ出張授業
活動の内容 (概要)	<p>CBCテレビでは、東海地方（愛知・岐阜・三重）の小中学生を対象に申し込みのあった学校に出向き、子ども達が『いろいろなメディアの中から正しい情報の選択』ができるよう支援する、メディアリテラシーに関する出張授業を行っています。また、東南海地震が起こると言われている地域であるため、いざという時のために『命を守る』という観点から、災害報道に関するメディアリテラシーも養えるよう工夫しています。</p> <p>講師はCBC解説委員・CBCアナウンサーで、「メディアの特徴を知り情報をうまく活用する」ことをテーマにした授業では、子供たちに身の周りには、どんな情報があるのかを考えるように促し、情報を伝えるもの全てがメディアであることを認識してもらいます。その上で、それぞれの特性や、上手な使い方などを一緒に考えます。また、「災害報道」についての時間では、災害時の各メディアの役割を知るとともに、いざという時にいかに行動するかを考える力を身につける内容となっています。さらに、夏休みには教員を対象としたメディアリテラシー勉強会を開き、一人でも多くの子供たちがメディアについて考える機会に繋がるよう、教員がメディアについてより深い知識を得る機会としました。</p>
	<p>メディアにはどんなものがあるのか？ どんな特徴を持っているのか？ それぞれの長所と短所はどんなところか？ などを自由に考え発表。 必ずしも正解のある質問ではないので、子供たちの自由な発想は大人も一緒に考える機会になります。</p>
	<p>災害報道の授業で、住んでいる地域のハザードマップを見ながら確認したうえで、感じたことを発表。 ハザードマップはデータにすぎず、必ずしも安全を保証する地図ではないこと、いざという時には何をすべきかなどを、一緒に考えます。</p>

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社島津製作所、株式会社島津ビジネスシステムズ</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>環境学習出前授業 「生物多様性」「ゴミとリサイクルの話」「水のお話」「私たちの暮らしと気象」 4テーマで実施</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>島津製作所は環境活動において、3つの柱を中心に活動を展開しています。3つの柱とは、</p> <p>①技術開発を通じて地球規模で環境改善を図ること。②製造業としてCO2 排出や廃棄物排出などの環境負荷を低減すること。③社外の環境活動の支援を行うことです。</p> <p>社内の環境保全のノウハウを社外に活用することで、より広く地球環境保全に寄与できるとの認識から、活動を社外の環境活動支援に広げてきました。</p> <p>特に小学校に出向いての環境学習出前授業は、2001年2月から開始し、2015年3月末現在で116回開催し、7120人以上の参加が得られております。現在は、「生物多様性」「ゴミとリサイクルの話」「水のお話」「私たちの暮らしと気象」のメニューを用意し、座学や実験だけではなく、子供達に遊び感覚で環境保全の知識を習得してもらうべく、オリジナルの環境学習支援ツール（双六・カードゲーム等）を作成し、授業を行っています。学校カリキュラムにはない企業独自の目線での授業で、好評を得ています。</p>	
	<p>2015年11月13日 気象予報士による 「私たちの暮らしと気象」 の環境学習出前授業</p>	
	<p>環境学習支援ツール 絶滅危惧種を学ぶカードゲーム 「bidi」</p>	

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社ダスキン</p>
<p>プログラム名</p>	<p>学校掃除教育支援活動 ～みんなでつくろう キレイをいっしょに～</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>株式会社ダスキンでは「喜びのタネをまこう」の経営理念を实践すべく、「次世代を担う子どもたちに、掃除の大切さを伝えたい」「掃除を通して子どもたちの力を伸ばしたい」そんな想いを込めて「お掃除の会社」としてお役立ちできる教育貢献活動に取り組んでいます。</p> <p>2000年の活動開始から、学校現場のニーズに応じて活動を充実させ、16年目となる現在は</p> <p>①「出前授業 キレイのタネまき教室「おそうじについて学ぼう！」</p> <p>② 教員向けセミナー「子どもたちの力を伸ばす学校掃除セミナー」</p> <p>③ 授業で使える学校掃除プログラム・教材の無償提供 を実施しています。</p> <p>活動の大きな特徴は、2011年、質の高い教育支援活動を継続するための講師の研修制度「学校掃除サポーター制度」を確立し、ダスキン本部と加盟店とが一体となって全国展開を実現する体制が整っていることです。</p> <p>また、①の出前授業プログラムについては、基本編となるSTEP1「掃除をする意義と掃除用具の使い方」に加えて、教員が苦手とするトイレ掃除の手順を中心にした新プログラムSTEP2を開発。さらに毎年増え続ける学校からの出前授業のご要望にお応えできない場合に備え、教員が自立的に実施できる新たな教材提供版「ワークブック申込版／おそうじじょうずになろう！」を開発し、提供を開始するなど、活動を進化させ続けています</p> <p>そして、2016年4月、「ダスキンお掃除教育研究所」へと組織名を変更、今後も掃除を通じた教育（学校／社会／家庭）分野での活動強化を目指していきます。</p>
	<p>小学校向け出前授業 キレイのタネまき教室 「おそうじについて学ぼう！」</p> <p>STEP1</p> <p>どうして掃除をするのか、掃除の必要性や意義を考えた後に、掃除用具の正しい使い方を学びます。</p> <p>なぜその使い方がよいのか、講師がわかりやすく解説し、実習をすることで、児童の理解が深まり、学校や家庭での掃除への意欲を高めます。</p>
	<p>教員向けセミナー 「子どもたちの力を伸ばす学校掃除セミナー」</p> <p>掃除時間を「子どもたちの力を伸ばす時間」として活用するためにはどうすればよいのか、改めて見つめなおす教員向けセミナー。</p> <p>学校掃除の基礎知識についての理解を深めたり、グループで「理想の教室掃除」の計画を立て、実習を行ったり、体験活動を中心としたセミナー構成で、学校掃除について楽しく理解を深めていただきます。</p>

大企業の部

企業・団体名	コニカミノルタ株式会社	
プログラム名	新入社員による出前授業 「理科離れをくいとめ、キャリア教育を支援する社会貢献活動」	
活動の内容 (概要)	<p>新入社員全員が参加する社会貢献活動。 理科離れという社会課題に目を向け、ものづくりの企業として貢献したいとの思いで、メイン事業の「コピー機」と関連のある活動を企画・実施。「コピー機」と「静電気」の関係を例に、学校の授業で学ぶことが世の中で実際に役立っていることを理解してもらうことで、理科や科学への興味・関心を高めていきたい。同時に、学生に一番年が近い社会人である新入社員から進路選択や学ぶことの意義等自身の体験を元にアドバイスを送ることで、キャリアについて考えるきっかけづくりとしたい。</p> <p>【目的と狙い】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理科や科学に興味を持ってもらうこと 2. 学校の授業で習う事が世の中で役立つことを知ってもらうこと 3. 会社とは？働くこととは？を知ってもらうこと <p>を目的に、下記の効果を狙っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普段接している先生とは違った視点で企業人が授業を行うことで、子ども達の理科・科学への関心が一層高まることを期待 ● キャリアについて考えるきっかけづくり <p>また、社内的には新入社員研修として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ものごとをわかりやすく伝える工夫を考えること 2. 目標を設定し、メンバーと共有し進めていくこと 3. 計画を立て、本業務に影響のないように時間管理をしながら効率良く進めていくこと <p>を通して、下記の効果を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト推進、プレゼン能力の向上 ● 世の中に役立つ活動を通じての企業人としての誇りを芽生えさせる機会 	
		<p>● 実験風景</p> <p>生徒が現像ローラーでカラートナーを載せ、絵を描いているシーン。各班には社員（左の白ジャンパー）が一人以上付いてきめ細かく指導を行う。使用するコピー原理実験装置はオリジナル制作。</p>
		<p>● キャリア教育風景</p> <p>生徒に一番年が近い社会人である新入社員が、自身の体験を元に、進路の話や働くことなどをメッセージとして送る。</p> <p>質問にもその場で答えていく。</p> <p>話す人、話す内容は学校／先生のニーズを把握した上で決定している。</p> <p>幾つかメニューを用意しておいて、生徒の希望に合わせて行うこともある。</p>

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>広島ガス株式会社</p>
<p>プログラム名</p>	<p>こどもエネルギーACT I O N!!! 「スーパーサイエンスミュージアム」～未来のノーベル賞受賞をめざした育成～</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>“広島ガスがつくるエネルギーは好奇心です”という理念のもと、「こどもエネルギーACT I O N!!!」と銘打って、子どもたちの好奇心を育て、それを契機に実社会で役立つ知識と技能の習得につなげることを目的とした教育活動を推進している。</p> <p>具体的には、科学教育、エネルギー・環境教育、食育、火育、防災教育の分野で、小・中学生を対象とした広範囲に及ぶ体験型の講座や出張授業を実施。その中でも、科学教育分野の「スーパーサイエンスミュージアム」プログラムでは、科学に興味を持つ子どもの力を伸ばし、未来の日本を支える技術者の育成につなげようと、小論文や面接で選抜された受講生（小学5・6年生）を対象に、学習指導要領の内容を踏まえた上でさらに高度な科学実験講座を2003年から開始し、本年で14年目を迎えた。実施に当たっては「学・官・産」が連携したプロジェクト形式により広島ガスが委員長・事務局を務めて運営する。</p> <p>プログラムでは、座学だけではなく実験や体験を通して、科学の不思議や奥深さに触れ、子どもたちの中に豊かな探究心を引き出す。同時に実践的な学習により、問題解決のための必要な情報の収集などを行う思考力、集めた情報を取捨選択する判断力、仲間とコミュニケーションを図る表現力を育成。夢と希望を持ち、身につけた知識や技術を実社会で生かすことのできる人材を育てることを目標として活動している。</p>



「養老先生と春の山を歩こう」
講座の様子より。東京大学名誉教授養老孟司氏を特別講師として招き、おおの自然観察の森(宮島の対岸に位置する自然観察の森)において、自然観察の講座を行った。日本最少のトンボ「ハッチョウトンボ」やモリアオガエルの卵塊など、大変珍しいものを観察することができた。



「化学実験大集合」講座の様子より。広島ガス技術研究所のスタッフが講師となり実施した、2010年にノーベル化学賞受賞 北海道大学 名誉教授 鈴木 章 氏の“鈴木カップリング”反応の再現実験の様子。

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>テュフ ラインランド ジャパン 株式会社</p>
<p>プログラム名</p>	<p>夏休みガールズデー エンジニアを体験！安全な製品について考えてみよう！</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>理系キャリア推進を目的とし、テュフ ラインランドジャパンのテクノロジーセンターにて、小学校5・6年生の女子児童を対象に安全試験にかかわる講義、試験施設見学（ラボツアー）、ワークショップを行っている。小学校児童のより身近な相談相手として、共催の電気通信大学から女子学生が派遣され、産学で連携し経験の場を提供するとともに、こうした活動の重要性を広く認知することの一助となることを目指している。</p> <p>企業からの教育内容に加え、共催の電気通信大学の女子学生から伝えられる大学教育についての情報、知識が子供たちの今後の進路決定、学習プロセスに良い影響を与えることを期待している。参加証明書（認証書）授与式では、「家の中にある認証マークを2つ見つけてください」という子供たちへの宿題を提案し、家庭での「安全」にかかわる意識の向上についての啓発を試みている。</p>
	<p>《試験施設見学の様子》 実際のデモンストレーションと実験を含む見学はおよそ1時間をかけて、8箇所の安全試験施設を見学した。 (写真はEMC試験用10m電波暗室)</p>
	<p>《ワークショップの様子》 第1部の安全試験の講義と第2部での試験所見学を通して、実際の試験設備を見た後に、製品開発者となってベビーカー開発と安全試験の種類について考えるワークショップを行った。</p>

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>公益社団法人全国求人情報協会</p>
<p>プログラム名</p>	<p>「お仕事ブック」作成プログラム</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>全国求人情報協会は、求人情報の適正化事業、求人情報等に関する調査研究事業などを行う公益社団法人であり、求人情報を扱う企業で構成されています。現在、新卒学生を含めた求職者のうち約3分の1が、求人情報メディアを通じて求職活動を行っています。当協会は、求職者に求人情報が正確かつ適正に提供されるよう活動しています。</p> <p>我々が持つ「さまざまな仕事情報」やその「やりがい」「その仕事に就くための必要となるスキル」などの知見を児童に伝えることで、彼らの「仕事をする力」「社会に出るための基礎的な力」を伸ばすことができると考え、キャリア教育プログラムを推進しています。</p> <p>プログラムは4ステップで構成されています。</p> <p>Step1 の事前授業では、協会の会員企業の社員が出張講師となり、「仕事について知る」をテーマに授業を行います。授業は児童参加型のグループワークがメインとなります。</p> <p>Step2 は、児童による自主学習です。学校の方針により、仕事研究か体験学習をお選びいただけます。</p> <p>Step3 が『お仕事ブック』制作です。仕事研究や体験学習をもとに、児童が原稿を作成。実施企業が製本をいたします。</p> <p>Step4 にて取材内容の発表ワーク。完成した冊子を使い、児童が研究・取材した内容について発表をします。</p>
	<p>東京都板橋区公立小学校での授業風景 協会の会員企業の社員が出張講師となり、世の中にある仕事について説明した。</p>
	<p>出張講師の集合写真 児童が将来について真剣に考えるきっかけづくりができ、講師も大きなやりがいを感じている。</p>

大企業の部

企業・団体名	日本生命保険相互会社	
プログラム名	中学生・高校生向け～将来について考えよう～ キャリア教育・社会人交流プログラム～丸の内から描く私のみらい～	
活動の内容 (概要)	<p>少子化・高齢化等の社会環境の変化に伴い、子どもたち一人ひとりに将来について考え、きり拓いていく力が求められる中、それを応援したいとの思いで当社職員が講師となり、中学生・高校生向けに参加型授業「将来について考えよう」を、次の3つの取組を軸として行っている。</p> <p>① 出前授業では、講師として当社職員が学校を訪問し、進学・就職・結婚・老後といった将来迎えるであろうライフイベントについて、社会環境の変化・必要資金の観点から解説する。</p> <p>② 受入授業では、生徒が当社を訪問し、出前授業の内容に加え、お客様来店型店舗の見学や、先輩社会人との座談会により、社会に出ること・働くことを考える機会を提供している。</p> <p>③ 2016年度からは株式会社 JTB コーポレートセールスとの協業により、修学旅行のなかに「受入授業」を組み込む、『キャリア教育・社会人交流プログラム～丸の内から描く私のみらい～』を新たに開始。当取組では、当社丸の内ビルにおいて、通常の「受入授業」に加え、従業員食堂での当社職員との夕食交流会や、未来の自分へ宛てた手紙を作成する。修学旅行という一生に一度の特別な場に取り入れることにより、生徒たちが自分自身の将来、社会に出ることをより具体的に考える機会を提供している。</p>	
	<p>(先輩社会人との座談会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本生命 & JTB～丸の内から描く私のみらい～での座談会の様子 ● 基本の授業を終えたのち、各班に1名当社職員が入り、仕事のやりがいや人生の転機について、自分自身が経験した成功談・失敗談を交えて紹介 ● 少人数形式を活かして、生徒からの質問に1つずつ回答、自由に意見交換を実施 	
	<p>(出前授業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 進学・就職・結婚・老後といった将来迎えるであろうライフイベントについて説明する ● 授業はスライドをもとにワークシートを用いて進めていく形式で、途中でクイズやグループワークも行い、生徒に意見を発表してもらう時間も多く設けている 	

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>東京ベイ信用金庫</p>	
<p>プログラム名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県立市川昂高等学校「金融教育」 ・東海大学付属浦安高等学校中等部「金融教育」 ・千葉商科大学「当金庫における個人取引推進について」 	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>地域と協働して行う社会貢献活動は、相互扶助・非営利という信用金庫の特性を活かしつつ、会員でもある取引先の身の丈・ニーズに合った地域密着型金融への取り組みが必要であり、そのような活動を目指しています。</p> <p>また、そういった各種サービスの提供等の役割を適切かつ持続的に進めていかなくてはならないと考えています。</p> <p>前述のようなことに加え、地域の幅広い年齢層に対して、根ざした活動を提案していくとともに、当金庫として補えない部分を、中央機関・業界団体の機能を活用したり、県・市等の地方行政機関と連携していくことが必要です。</p> <p>今後も、当金庫自身が、自らの身の丈にあった活動として地域に対し、持続的かつ継続的に貢献できるものと考え、費用をかけずに地域力を連携させ活動しています。</p> <p>当金庫は、社会貢献活動の柱として、「金融経済教育」の実施を考え活動を開始しました。</p> <p>平成20年度に千葉県立市川工業高校において、「金融経済教育」を地元警察署やNPO等と連携して協働で実施したことを皮切りに、スタートしました。</p> <p>その後、関東財務局や関東経済産業局や千葉県や市川市と協働して「セミナー」等実施してきました。</p>	
	<p>千葉県立市川昂高等学校で、東京ベイ信用金庫の新入職員が、高校1年生に向けて、信用金庫に就職した動機を先生に質問されているところです。</p>	
	<p>東海大学浦安高等学校中等部の3年生に向けて財務省関東財務局千葉財務事務所の職員が財務事務所の仕事について、説明しているところです。</p>	

優秀賞

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社アトリエテンマ</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>仕事体験・デザイナー体験 学校訪問授業「SHOP DESIGN」</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>“デザインとは伝えること”という定義のもと、生徒達が、サービスの考案から購買までの心地良さの提供という全体をデザインした「世界一のお店をつくる！」ことで、課題に対し“本気で取り組み考え抜く力”、協力しあう“コミュニケーション能力の向上”、決めたことを“やり遂げる力”を涵養していくことを目的に学校と協力し毎年実施している。</p> <p>具体的には、3日間（計6～8時間）かけて、プロデザイナーが用いる以下の手法により実施。</p> <p>「導入」：講師と生徒が「デザイン」についてディスカッションし“デザインとは伝えること”という定義を理解。各チームが“世界で一番”と思うお店のコンセプト提案 「制作」：メンバーで役割分担し、お店の模型制作</p> <p>「発表」：制作したお店を紹介するプレゼンテーション及び講師等による表彰</p> <p>各チーム（5～6人）が制限時間の中「導入」「制作」「発表」の3工程で作業を展開。各自役割に責任を持ちチームで協力し、生徒・講師・教員・父兄の前で、チーム全員で発表を行う。生徒全員で全チームを採点し、講師の採点と合わせて優勝チームを決定し表彰する。</p> <p>生徒達が本気で取り組むことで、生み出すこと、やるべき事、厳しさ、ルール、チームワークの大切さ等の気付きを促す。</p> <p>プロの仕事の楽しさ・大変さがリアルに伝わることで「本物」を知る楽しさや驚きが生徒達の興味へと繋がり、働くことの意義、やりがいを考えるきっかけづくりをつくる。</p>	
	<p>自分たちで考えたコンセプトとデザインで模型制作。体育館に並んだたくさんの素材は生徒達の本気とやる気に火をつける。</p> <p>壁、床、看板、小物類など、それぞれに役割を分担するなど、チーム内で上手に話し合って作業を進めていく。生徒達にとって、自由で斬新なアイデアが次々と浮かび、時間を忘れて夢中になる時間となる。</p>	
	<p>出来上がった模型をチーム全員で発表。演劇風だったり、ナレーションがあったりと個性豊かなプレゼン発表に大人達も驚く。講師からはプロ目線で講評。</p> <p>発表中は、生徒、先生、講師が全てのチームを採点。グランプリに選ばれるのは1チームのみ！表彰式、最後に塾長（アトリエテンマ デザイン塾長 長谷川 演）の総括で終了。</p>	

＜審査委員からの評価コメント＞

- 通常の授業で扱うことは少ないが、児童生徒にとって敷居の低いデザインを取り上げ、実施機関のスタッフとプロデザイナーの参加協力や、児童生徒の主体的な関わりを求める精緻な仕組み。
- 父兄や地域を巻き込み、正解がないものへの取組を通じて、生徒の中にある自由な発想を他社に伝えられる経験ができるプログラムとなっており、自己肯定感の向上も期待できる。
- ひとつの視点を掘り下げることにより、広くキャリア全般について考える学習となっており、充実したプログラムが組まれている。

優秀賞

<p>企業・団体名</p>	<p>一般社団法人ドリームマップ普及協会</p>
<p>プログラム名</p>	<p>主体的に生きる力を育む 「キャリア教育・ドリームマップ授業」</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>キャリア教育・ドリームマップ授業は、幅広い年代を対象に生きる力を向上させる教育プログラムを児童・生徒の発達段階に合わせて構成したものです。 「夢とはワクワク心が動くこと」とであると知り、「夢（ビジョン）を描く力」「夢を信じる力」「夢を伝える力」を育むことを主な目的としています。1日6時限の中で肯定的な自己分析→「なりたい自分像」を視覚的に表現→発表と段階的に進み、周囲からの応援も力に、自信を高め、実現に向けた発展的行動につなげます。 「自分はどんな大人になりたいか？」を多様な視点で考え、自身の喜びと共に他者やよりよい社会に貢献しながら幸せに活躍する姿を想像する過程で、社会の中の自分の存在に気付き、将来への期待につながります。夢を職業に限定せず、自分が意欲を持てるものや大切にしたい価値観を大事にする、という考え方をすることは、自分軸の形成を助け、予測困難な変化に富む世界の中で主体的に柔軟に生きる力になります。 授業を実施する認定講師は、会社員、経営者、専門職、職人、主婦や定年後のシニアなど多彩な職種や多様な世代であり、夢を持ち自分を大切にしながら社会に貢献することを楽しんでいる元気な大人の姿が、将来のキャリアを思い描く時に明るい見通しを与えています。 教育委員会による初任者・現役教員向けの研修や教職を目指す大学生のゼミでの授業に採用され、教員自らがキャリアを考察するきっかけにもなっています。</p>



3・4 時限目のドリームマップ作成時間の様子。
グループで作成することで、お互いに刺激し合い、話をしながらも、自分の作業に集中している。
中学校などでは、前を向いて一人ひとりで自分と向き合いながら作る場合もある。

ドリームマップ授業を図工の授業と組み合わせ、二分の一成人式の時に体育館の壁に全員の夢を貼り、一人ひとりが保護者に向けて発表会を行った事例。また、模造紙の中心にドリームマップを貼り、周りに夢を広げて完成させる学校もある。

<審査委員からの評価コメント>

- 認定講師による質を確保した上で、専門的な見地から練られた良質なプログラムであり、独自のワークブックも用意されている。
- 各学校で実践されている「職場体験」「1/2成人式」等の体験活動と接続し、その事前・事後指導として有効的に効果を発揮している。
- 日常の勉強や練習の努力が、自身の夢の実現につながっていくことが明確な形で分かるようにする取組は重要な価値があり、お互いに発表することにより他社を尊重し、相互理解の経験につながっている。

中小企業の部 奨励賞

企業・団体名	東京商工会議所
プログラム名	東商リレーションプログラム
活動の内容 (概要)	<p>1. 企業と大学の橋渡し 2015年8月に「中小企業の魅力発信」と「大学初年次からの職業観の醸成」を目的に開始。中小企業の「会社ツアー」や「仕事観察」などを会員企業で体験するプログラム。「会社を知る」、「仕事を知る」をテーマに学生が企業に足を運び、経営者や従業員と接することで視野を広げ、卒業後の進路を考える参考にしてもらう。「仕事観察編」は、初年次に「会社ツアー編」に参加した2年生が同一企業の仕事をさらに深く学ぶ。受入れ可能企業を募集し、大学（東商会員）のキャリアセンター等を通じて参加学生を募る。参加企業および大学を順次拡大し、学生の休暇期間を中心に年2回開催。</p> <p>2. 事前研修会の実施 学生の参加目的を明確にするために行う。学生は企業を選んだ理由や学びたいことを、ワークシートを基に個別学習。当日はグループワークと発表を行い、企業・大学担当者からフィードバックを受ける。終了後には、今後の本プログラムをより良くする目的で、企業・大学担当者間の情報交換の機会を設定。</p> <p>3. 企業訪問とフィードバック 全企業に職員が随行し、企業と連携して運営を行う。終了後には企業・大学担当者と学生からヒアリングし、その後の活動に生かす。</p> <p>4. 「東商学生サイト」における情報発信 中堅・中小企業の魅力を学生に発信する目的で2016年10月に開設した「東商学生サイト」にて、他社事例や参加者の声を掲載し、普及活動を行う。</p>



大田区の町工場にて金属加工の体験をする大学1年生。学生は「もの作りを体験することで、日本の技術力の高さを肌で感じる貴重な機会だった」との感想を寄せた。



学習塾にて生徒の支援・補助を行う。「相手の意思を尊重し、意見を聞きながらプログラムを進めていくことの大切さを学んだ」「今回の体験を大学における福祉分野の学びに繋げていきたい」などの成果を得ている。

＜審査委員からの評価コメント＞

- 多数の会員企業、大学等のネットワークを活かし、中小企業、大学生の課題に即した現実的なプログラムを展開しており、会員サービスの一環として期待できる事業内容でもあることから他の商工会の見本となる。
- 早い段階で中小企業の役割と仕事を学生に理解させることは重要であり、中小企業単独では行いにくいプログラムを商工会議所が主体となって実施している点を評価。
- 大学入学後の早い段階から就業や働くことについて新たな発見や確認を促し職業観を醸成している。

奨励賞

<p>企業・団体名</p>	<p>徳島県信用保証協会</p>
<p>プログラム名</p>	<p>未来の“経営者”たちに地域ビジネスのすすめ ～夢をカタチにする生き方・働き方～</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>徳島県信用保証協会は、徳島県内の小中学校・高等学校・専門学校・大学・企業などと連携協力し、キャリア教育として各年代に合わせたプログラムを企画・実施している。</p> <p>小中学生に対しては、「働くことへの興味・関心を高め、夢を叶えるための準備」を学んでもらうことを目的としており、出前授業「仕事セミナー」を通じて、仕事や働くことについて考える機会を設け、夢を持つことや、今から「何を考えて考動する（自ら考え動くこと）べきか」考えるよう投げかけている。</p> <p>また、高校生や大学生等に対しては、働いていく先には、「仕事は与えられるものでなく、仕事は自らが創り出すもの」との観点で、創業を目指す人材を育てるため、社会の仕組みをよりよく理解し、仕事への興味・関心をもってもらい、夢をカタチにする方法の一つとしてビジネスプランを作成し、プレゼンテーションする方法を教えている。</p> <p>さらに、大学生には、様々な社長（経営者）と交流をもつことで、社長の生き方・考え方・働き方に興味・関心をもってもらい、将来的には地元で創業する意識の醸成を図っている。</p> <p>このように、当協会は公的金融機関の信用力とネットワークを活かし、キャリア教育の様々な経験に基づき、徳島県内の主要な教育機関と連携したキャリア教育を積極的に行っている。</p>



(出前授業「仕事セミナー」を飯尾敷地小学校にて5年生34名に実施)

創業支援活動の一環として、将来を担う生徒達に、「金銭」について正しい知識を教え、学びの必要性を感じてもらい、「お金とは」「働くとは」に対する価値観を醸成し、「将来の生き方」への興味や関心を喚起することを目的として実施した。

セミナー終了後の感想文には、「最初、仕事は大変なことだと思っていたけど、みんなの役に立つことができ感謝されるので、働くことは素晴らしいことだと思いました」「今は夢がないけど、今できることを一生懸命に積み重ねることで地域に役立つ働き方をしたい」等、前向きで夢のある感想が多数寄せられた。



(社長のかばん持ちを吉野川タクシー有限会社にて実施)

社長のかばん持ちでは、学生7名がそれぞれに地域で活躍する4名の若手社長の会社に訪問し、社長の働き方に密着することで社長の働き方・考え方を間近で体験するプログラム。

また、業務の合間には「仕事とは」「働くとは」「求める人材」等について話し合い、社長の生き方、考え方に触れることで「自分らしい働き方」について考える機会を持った。

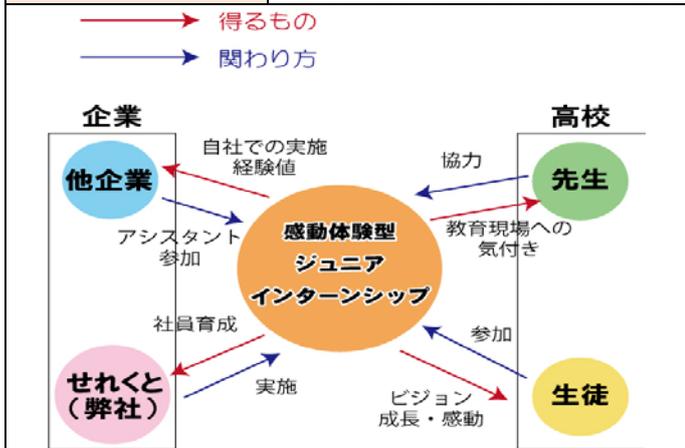
さらに、報告会では学生が会社の課題解決に対する提案・提言を行うことで、地方の中小企業で自分が何が出来るかを考える機会となる。

<審査委員からの評価コメント>

- 幅広い対象に、各々の発達課題等に応じた豊富なメニューと実践的なプログラムを実施しており、金融機関のネットワークを活用した教育機関との連携は他の地域の見本となる。
- 地域の産業発展に貢献できる人材づくりには、このような取組がベースにあるべきと感じさせるプログラムであり、地元で起業する人材の輩出が期待される。
- 地域の児童生徒・学生に、学ぶこと、働くことを地元目線で伝えるメッセージ性のある活動プログラム。

奨励賞

<p>企業・団体名</p>	<p>有限会社せれくと</p>
<p>プログラム名</p>	<p>感動体験型ジュニアインターンシップ（高校生向け、支援学校生向け）</p>
<p>活動の内容 （概要）</p>	<p>【自分らしく輝く人生をイメージする】【短期間で驚くほどの成長を体験する】 この2つをテーマとして設計したジュニアインターンシップを高校生に提供しています。初日は緊張で声も小さく消極的な生徒が、3日間で、生き生きと目を輝かせ取組むようになります。最終日には感動で涙する生徒が続出します。</p> <p>構成は、業務体験とワークの2種類です。</p> <p>業務体験は、その仕事を行っている従業員が「自分の仕事への誇りや顧客への想い」などを語る事から始まり、仲間となって一緒に業務を体験します。目標設定や改善アイデアなどを生徒同士が話し合うプロセスを毎回実施し、生徒たちの自主性を育み、協力する力や発言力を磨きます。</p> <p>ワークは、業務体験とリンクする形で講義とゲーム形式で行います。人生を漠然と生きるのではなく、輝いた人生を描くためのビジョン作りとそこから逆算する方法を学び、実際に自分で人生プランを描く練習などをします。それまで積上げ方式で未来を描いていた高校生が、なりたい自分像から逆算した今を描く体験を通して、日々に対する本気度が明確に変わります。</p> <p>この一貫した構成が、学びと同時に体験となり、知識だけでなく経験として生徒たちの成長につながります。実際に3日間で驚くほどの成長を見せてくれます。</p> <p>支援学校の生徒は、10日間の日程で同様の内容を組み換え、個々のペースに合わせて学び、実践し、同様の成果を得ています。</p>



感動体験型ジュニアインターンシップの相関図
高校生は、ジュニアインターンシップを通じて、自分の可能性に気付き、ビジョンを描くようになります。社員は、ジュニアインターンシップを実施することで自分たちの日々の努力を再確認するとともに、高校生から感謝される機会を通して自分の行動への自信を深めます。先生は、生徒の変化する姿と弊社の生徒に対する全て受容する関わり方を見て、教育現場で活かせる気付きを得ます。他の企業は、ジュニアインターンシップの運営を手伝うことで、自社での実施へのヒントを学ぶとともに会社運営における人間関係のヒントも得ています。



【写真左】3日間のインターンシップでの学びをマインドマップで表現しています。これを基にニュースレターを作成します。成果物を残す・第三者に出来事や自分の心の中にある想いを伝える力を身につけることが目的です。葛藤しながら挑戦し、ひたむきな努力や学びとともに、笑って泣いて本気で過ごした3日間の様子が記されています。これから社会に出る高校生を応援してもらえる機会を作りたいと思い、このニュースレターを弊社の全国のお客様に『あらいぐま通信』としてお届けしています。

<審査委員からの評価コメント>

- 社員総掛かりで地元生徒のキャリア教育に協力しており、社会人基礎力を高めるために必要な汎用性のあるプログラムとなっている。
- 学習効果を期待できる様々なハードルを設定することにより、体験活動そのものの質的向上が期待できる取組であり、感動体験型というユニークなプログラムを設計・実施している。
- 職場での業務体験とゲーム化したワークで構成されており、手作り感があるが、どのような企業でもできる範囲でキャリア教育に携われる好事例として、全国的に周知したい。

中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社スリーハイ</p>
<p>プログラム名</p>	<p>企業が考える地域子育て。小学3年生社会科校外授業「こどもまち探検」</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>私たちが籍をおく東山田準工業地域は、港北ニュータウン開発時に点在する工場を集約する地区として準工業地域に指定され、以来、中小の製造業を中心とした工業ゾーンを約80社で形成されています。</p> <p>2013年、子どもたちにもっと企業を知ってもらおうと「こどもまち探検」をスタートさせました。</p> <p>昨今「産業」と「生活」は分断され、働き、住みやすくなりました。その反面、近所で働くところを見たり聞いたりすることが減ってしまい、子どもたちの将来の選択が偏ったり、更に視野が狭くなってしまったことで子どもたちは夢や将来像が描きにくくなっているのではないのでしょうか？</p> <p>また準工業地域は小学校や住宅から近い場所にありながら、子供や住民と接点が少なく「仕事の内容・働く人の思い」などを地域住民に十分知ってもらえていない現実があります。</p> <p>まずはこの「こどもまち探検」を身近な地域（横浜）の人にも知ってもらい、この活動をきっかけに全国の準工業地域や工業団地が「地域子育て」をしていく活動を広めていきたいと思っています。</p> <p>私たちは未来を創る日本の子供たちに、地域に「こんな大人が居る！」「こんな仕事がある！」と知ってもらい将来の夢や希望を持たせてあげたいのです。そしてこの熱い思いを全国の企業の皆さんに届け、知ってもらいたいです。</p>
	<p>3 クラスの生徒さんが集合場所にやってきました。「どんな会社があるのかな？」「危険なところがいっぱいあるからまわりの大人の人たちの言うことをよく聞くようにね、そして何よりも楽しんでください！」と男澤より説明があります。そのあと数班にわかれ、地域の大人が見守る中スタートです。2 時間後、美里橋サークルさんが作った準工ロードの菊花を見ながら解散となります。</p>
	<p>工場見学の最後は、恐怖の質問コーナーです。どんな質問ができるかわからないので企業側（主に社長さん）はドキドキします。「仕事でつらいことはなんですか？」「どうして会社をやっているのですか？」「社長さんになるためにはどうしたらいいですか？」など質問が止まりません。9 歳にわかるように説明するのは難しい。社員さんの前でうろたえる社長さんは勉強になるよと言ってくれています。</p>

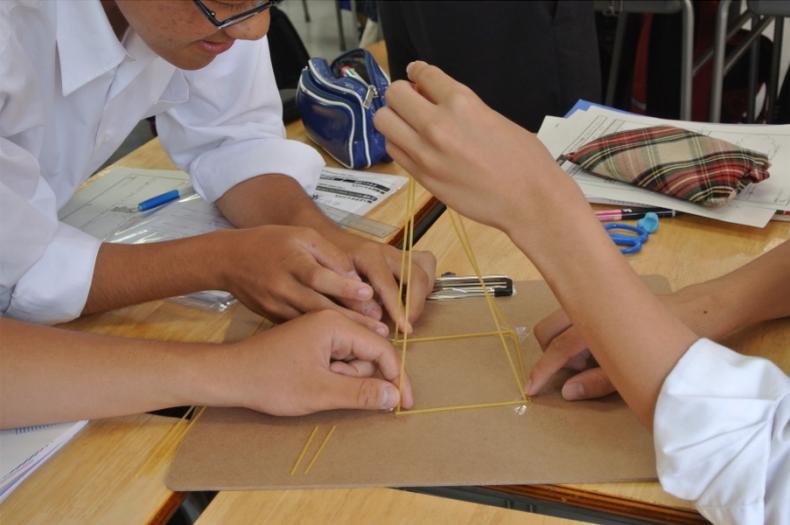
中小企業の部

企業・団体名	大阪府中小企業家同友会	
プログラム名	大阪府下の高校とのキャリア支援活動	
活動の内容 (概要)	<p>2011年に学校からキャリア支援授業に関する依頼を受けたことを契機に活動を開始。授業では同友会会員1～2名に対し、生徒7～8名でグループ討議を行い、高校生が自分の言葉で、自分の思い、考え方を語り、職業観や人生観を醸成することを促しています。</p> <p>地域で若者を育成する中小企業の役割を認識し、雇用に消極的だった企業も、新卒を求人できるような会社を目指し、企業風土強化の取組み、また高校との連携で、今まで求人をしたことのない企業も高校新卒に取り組みようになりました。教員は企業訪問をする機会などが増え、お互いの立場を理解する関係が築かれています。</p> <p>本プログラムの実施前後で、進路未決定者が減少したという例が多く的高校で見られています。</p>	
	<p>2015年10月8日に開催した大阪府立枚岡樟風高校との交流会の様子です。</p> <p>まず現場教員から苦悩しつつも生徒と向き合う報告、同友会経営者から社員育成の報告の後、「企業が学校に求めること、学校が企業に求めること」をテーマに、教員69名、会員27名で13グループに分かれて、グループ討議が行われました。</p>	
	<p>2016年8月に開催された中河内地区若手教員の企業訪問会の様子です。10チームに分かれ、会員4名と教員4名で、企業見学の後、経営者から会社説明や、教員からの様々な質問に答える企画です。2016/8/2～8/5で経営者参加総数32、教員参加数36名です。</p>	

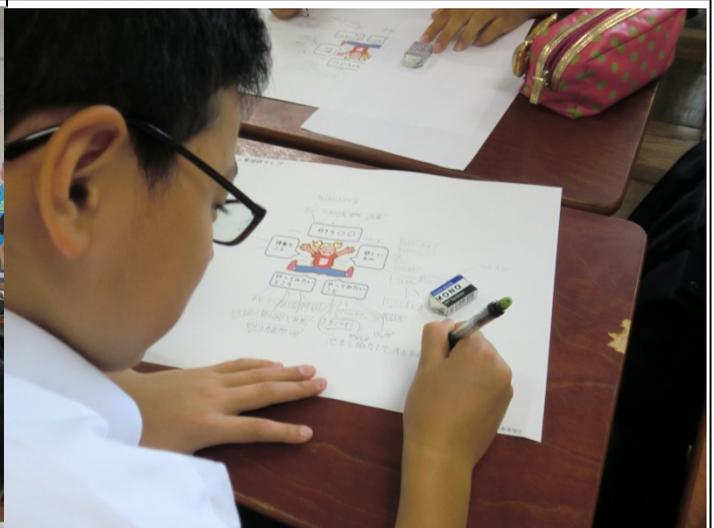
中小企業の部

企業・団体名	熊日宮原販売センター
プログラム名	学資力向上プログラム（大学生、大学院生、高専生） 地域の担い手育成プログラム（子ども記者クラブ小中高生 50 人）
活動の内容 （概要）	<p>教育現場における教官・教諭の負担が過大な昨今、地域に根ざした企業として、単発や学年ごとの断片的なプログラムではなく、小学生から大学生までの成長や相乗効果を生む教育デザインが必要であると考え、以下の2つのプログラムを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学資力向上プログラム 氷川流域の地域活性化を目的とし、ネットワークを活かして全国各地から大学生らを受入れ、3つの宿泊プログラムを実施している。これらは1ヶ月以上前からSNS等を利用した事前学習に始まり、報告会・振り返りまでを行うもので、地域課題の解決へ向けたグループディスカッションは深夜にまで及ぶが、学生らの相談等に午前3時まで対応することで満足度や達成感が高く、終了後の個人またはゼミ活動においても積極的な行動に繋がっている。 ・地域の担い手育成プログラム 小学3年生から高校3年生までを対象とした任期1年の子ども記者クラブは、3月に入学式を行い、名刺、腕章、取材ノートを配付し、記事の書き方学習会を経てミニコミ紙へ積極的に記事を寄稿している。 <p>個別のプログラムについては、NIE（教育に新聞を）の推進を目指す熊日クイズの新聞折込みのほか、商品開発と販売を行うわらしべアイスプロジェクト、将来の目標設定の一助とする大学・大学生の活動取材する県外研修、大学生との交流、まちの課題探究・解決コースの新設など多様で、保護者、学校や地域住民からも高い評価を受けている。</p>
	<p>2015年8月 地域づくりインターン 【氷川町職員との政策検討】 氷川町職員と大学生・大学院生が3チームに分かれ、町の課題について昼夜を問わず3日間議論を重ね、報告会へ向けてプレゼン資料を作成中。 うち、町長が認めたゴミ削減の提案については9月の補正予算に計上され、提案が実現した。</p>
	<p>2015年12月 子ども記者クラブ 【わらしべ市での物産販売】 北海道ニセコ町、群馬県みなかみ町、長野県小布施町など全国6つの民間団体と物産の交換を行って対面販売を行う。 例えば、小布施町のリンゴ販売により、同等額の氷川町のみかんが小布施町で販売されるため、間接的に地元農家の支援にも繋がっている。※販売実績は1.3ト</p>

中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>一般社団法人F o r a</p>
<p>プログラム名</p>	<p>「分からなから決められない」ではなく、「分からないからこそ、決めてみる」 ～高校生目線の進路選択プログラム～</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>大学生による高校生に対してのキャリア教育プログラムを実施。 「やりたいことが見つからない」「学ぶ意味が分からない」という高校生の進路選択における課題を踏まえ、「学ぶことの楽しさ」が原動力となり、「なんとなく」ではなく、「主体的な」進路選択を促す活動している。 具体的に、高校現場で、大学や専門学校で学ぶ学問分野の「本質」を体感できるワークショップを開発し実施。ワークショップ自体は、グループごとに分かれ、手や体、頭を動かしながら取り組むもので、楽しめる内容となっている。しかし、ただ単に楽しい内容だけではなく、対象学問についての理解が深まるような「仕掛け」をしている。高校生は、純粋にワークショップを楽しみながら、知らず知らずの内に、対象学問分野の「本質」を体感している。ワークショップが終わった後に、対象学問を専攻している大学生が、その学問の面白さや、適性について解説をする。そして、各々高校生が、その学問の適性（ワークショップができたか、楽しめたか）を振り返る、という構成になっている。 多くの高校生が、学ぶことを楽しいと感じてはいない。しかし、それは食わず嫌いをしているだけ、ということが殆どだと考える。まずは、1分野でもよいので、大学や専門学校で学ぶ学問分野を、純粋に楽しいと思えること。その「学ぶ楽しさ」を知ることにより、「他の学問分野も調べたい」「もっと深めたい」という、主体的な進路選択に繋げている。</p>
	<p>パスタタワーを立てるワークショップの様子。 生徒自身は、楽しんでワークに取り組む。大学生は教室内を周り、適宜アドバイスや、グループ内にうまく入れない高校生のサポートを行う。 この後に、建築の適性や、面白さを伝える。</p>
	<p>大学生研修の様子 当日実施するワークショップの目的や内容を伝えます。 また、ファシリテーション力等について伝える時間も設け、大学生にとっても有意義な経験になるように心がけています。</p>

中小企業の部

企業・団体名	一般社団法人日本ゆめ教育協会
プログラム名	ワクワクゆめ教室～クラスのチーム力で夢発見&夢発表
活動の内容 (概要)	<p>プログラムのねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●夢を持つことが、今後の学習やスポーツ、生き方の原動力となることを実感する。 ●夢発見のプロセスを理解することで、夢や未来をデザインする方法を知る。 ●ゲーム要素やチーム活動を取り入れ、楽しみながら夢を発見することができる。 ●全員が夢を発表することで、お互いの夢を理解し応援し合う関係性を作る。 <p>プログラムの流れ</p> <p>ゲームや夢ワークを通して、楽しみながら夢を発見し、クラス全員で発表し合うワークショップ型の授業。講師は協会認定講師が担当し2～3コマ時間で実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①導入（10分） 講師自己紹介、授業のオリエンテーションを行います。 ②アイスブレイク（10分） 身体を動かし、心と体をリラックスさせ、発想しやすい状況にします。 ③夢発見プログラム（50分） ゲームやアクティビティを実施し、夢の種となるキーワードを書き出し、そこから夢を見つけ、ひとつに絞った夢を具体的にイメージカードに記入します。 ④夢発表&ドリームツリー作成プログラム（15分） 夢を書いたカードを持ってクラス全員の前で自分の夢とその理由を発表します。発表後、ドリームツリーに夢カードを貼り付け、授業終了後もクラスに掲示し、お互いの夢を継続的に意識しあえるようにします。 ⑤まとめ（5分） 夢発見&夢発表への承認。夢を叶えるために大切なことを伝えます。 <p>授業の展開例</p> <p>各校のニーズに合わせて、<u>夢と学習・学校生活を接続させ具体的なアクションプランへの落とし込みや夢を多くの人前で発表するためのプレゼンテーションスキル</u>などのプログラムもありますので、学校の学習支援や部活動支援、教職員向け研修等で、ご活用ください。</p>
	
協会認定講師がファシリテーションしながら、“いいね”と“拍手”と“笑顔”で教室の雰囲気を確認と応援し合う雰囲気に変化させて授業がスタートします。	夢たんけんマップを使って自分の頭の中にある情報を「すきなもの」「やってみたいこと」などからイメージし広げていきます。その後、このマップをヒントにひとつの夢にまとめていきます。

中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>公益社団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団</p>
<p>プログラム名</p>	<p>B&G 東京湾海洋体験アカデミー2016</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>B&G 財団は、全国 390 自治体と協力の元、主にマリンスポーツ等自然体験活動を通じた青少年の健全育成に係る各種事業を実践してきた。</p> <p>海に対する知識と愛着が不足し、海離れや海洋産業の後継者不足が社会的課題として取り上げられる昨今、海に関連する各分野のトップランナーと協力し、子供達の海への興味・関心を育て、海洋産業の重要性と魅力が再認識できるような「実体験を伴う多角的な海洋学習機会」を提供する取り組みを始めた。</p> <p>海が好きの子供を増やすと共に、継続的に海に親しみ、将来的に海の仕事に携わる人材を育てることを目的に実施する本事業では、4泊5日にわたり、“海のプロフェッショナル”（海上保安官・造船業・水産業・船員・海洋科学研究者等）の仕事現場見学、仕事体験、マリンスポーツ体験等を行う。体験を通じて、各仕事のスケール感、凄さ、楽しさ、社会における重要性などを体感し、必要な資質や技術、取り巻く環境や自分達の生活との関連性等を理解させる。東京湾近郊において、複数の業種を体験させることによって、相互関係を理解させ、関連する様々な海の仕事に目を向けさせることも目指している。</p> <p>また自分の興味と一致する海の仕事を見つけ、自分が将来進みたい道、自分なりの海との関わり方など、キャリアビジョンを描くきっかけとなるようワークショップ等を通じて導き、最終日は保護者や講師、マスコミ、協力団体等に対し班ごとに発表する。</p>
 <p>特殊防火服 (海上自衛隊)</p> <p>設計士体験 (造船所)</p> <p>航海計画作成 (航海士)</p> <p>特殊救難隊 (海上保安庁)</p> <p>溶接体験 (造船所)</p> <p>ホタテの解剖 (水産研究所)</p> <p>マリンスポーツ</p> <p>水中ロボット操縦 (海洋研究所)</p> <p>活動詳細・学習発表会は こちらから!</p> <p>2016B&G7カデミー 検索</p>	<p>各訪問先では、実際に海の仕事の一部を体験します。</p> <p>例えば、住友重機械マリンエンジニアリングの横須賀造船所では、社長から造船業に関する説明を受けたあと、組ごとに分かれて溶接体験（シミュレーター）、設計士体験、回流水槽実験、造船工程見学、建造途中のタンカー内見学等、学校授業や家族旅行では絶対できないプログラムを体験します。</p>
	<p>最終日の発表会に向けて、每晚体験学習を終えたあと、タベの集いにおいて、班別製作を行います。</p> <p>組付リーダーがファシリテーションをしながら、班長を中心に班ごとに発表方法を相談し、絵を書いたり、クイズを考えたりし、その仕事について感じたことを、保護者やマスコミ、協力団体や他の参加者に対し発表します。</p>

中小企業の部

企業・団体名	特定非営利活動法人じぶん未来クラブ
プログラム名	シゴトのチカラ SPECIAL
活動の内容 (概要)	<p>当法人設立 10 周年にあたり、今までの知見を総集した3日間のキャリア教育プログラム。</p> <p>働くことの素晴らしさを体感し、将来に対する前向きな気持ちを醸成することを狙いとしている。</p> <p>プログラムの軸は多方面で活躍する社会人が行う「自分の渾身の仕事」のプレゼンテーションである。社会人が一方的に話すのではなく、クイズやグループワークも挟みながら行われる。生徒のグループにはナビゲーターと呼ばれる大学生のボランティアスタッフ、もしくは社会人がサポートに入り、有効なグループワークの場にする手助けをする。</p> <p>生徒は社会人のプレゼンを2社分聞いた後に、自分達もプレゼンを行う。各日ごとに異なるテーマが設定されており、例えばテーマが「グローバル」の日では「グローバルに活躍する上で大切にすべきことは？」となっている。※参加企業は3日間で22社66名の社会人。</p> <p>生徒は日本の各地の通信制の学校から進学校まで様々なバックグラウンドの全61校の中高生が参加。社会人からだけでなく、同世代とのセッションやサポート役の大学生からも多くの刺激を受けることで、今の自分を見つめ直し、明日への大きな一歩につながる機会を作り出した。</p> <p>また、一部の高校では本番プログラム日の前後に事前・事後授業も実施。事前授業では、本番に対する期待感・目的意識の醸成、事後授業では、聞いた内容の自分への落としこみを狙いとした。いずれも大学生が主体で授業を進行。特に事後授業では生徒が「自分自身の目指す大人像は？」というテーマでムービーを作成し、発表することで楽しみながら取り組む姿勢が見られた。</p>
	
<p>【オープニング】</p> <p>参加生徒・社会人全員が集合して実施。社会人が場を盛り上げながら登場、緊張している空気をほぐしていく（ブルーのTシャツは大学生スタッフ。生徒と社会人の橋渡しを担う。）</p>	<p>【社会人のプレゼン】</p> <p>寸劇やクイズ、グループワークもはさみながら、自分の渾身の仕事をプレゼンする。</p>

中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>東京都社会保険労務士会 臨海統括支部 キャリア教育研究会</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>「働くって!?!」、「みんなを助ける!お金のしくみ」</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>「働くって!?!」の授業では、社会人への発達段階において、小中高校の間に育てていかななくてはならない「社会人基礎力（職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力）」や「働くことの楽しさや厳しさ」や「熱意・情熱・忍耐の必要性」等を、家庭や地域でのインタビュー（事前課題として体験学習）等を通して児童・生徒たちに理解してもらうことを狙いとしている。</p> <p>学校での「勉強と活動」が、社会人になってからの「働くこと」につながっていること、そして「夢や志を持つこと」と「働くこと」の大切さについて考えることで、気づきのきっかけを創ることを目的としている。</p> <p>「みんなを助ける!お金のしくみ」の授業では、年金を始めとする社会保障を学び、日本全体で支え合っていることを実感する機会を設けている。</p> <p>社会保険労務士は国家資格者で、独立して開業しているか、企業に勤務している。多様な企業と向き合い、社長や従業員から相談される機会が非常に多い。それぞれの立場等からの豊富な体験談等を通して社会の変化を早い段階で察知していることで、「働くこと」「社会保障」について身近に感じてもらえる工夫を取り入れることが可能であることが特徴である。単なるアピールに陥らず公平な観点から義務と権利を知ることができるよう図っている。</p>	
		
<p>平成 28 年実施 大田区立中学校 2 年生 108 名 での「働くって!?!」授業風景。 生徒が行った事前課題で質問した「社会人と生徒の違い」について、フィードバックしている様子。多い回答を強調しているが、いろいろな考え方があっても伝えている。</p>		<p>平成 28 年実施 大田区立小学校 6 年生 109 名 での「働くって!?!」授業風景。 児童が行った事前課題で質問した「働く時に大切なこと」について、フィードバックしている様子。家庭や地域でインタビュー、思いがけない回答があったりする驚きを共有することもある。</p>

中小企業の部

企業・団体名	株式会社マグエバー	
プログラム名	「磁石っておもしろい」 ～子供たちの創造力をひきだす授業～	
活動の内容 (概要)	<p>株式会社マグエバーは、永久磁石及び磁石応用製品の企画、開発、販売を行う会社です。</p> <p>当社は、磁石の可能性を広く皆様に知っていただくことを目的に、2009年から出張授業を開始しました。現在では、授業のための教材・関係協力者等の実施体制が整い、前年から比較すると年間出張授業受講者数も200%増えております。</p> <p>授業の内容は、小学校学習指導要綱「磁石のはたらきや性質」の習得はもちろん、子供たちの発想力、創造力に働きかける内容となっております。クイズ形式をとる等、子供たちに語らせる授業を心がけ、双方向コミュニケーションによる授業は小学校の先生方から高い評価を得ています。</p> <p>今後は、活動の場を小学校だけでなく、一般財団法人あんしん財団・特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクールとの協働により、放課後保護者不在の家庭を支える活動も行っています。今まで以上に、子供たちの「理科って面白い」という感動、子供たちのチャレンジ意欲を引き出し、学校等での学びが実社会に結びついていることの気づきを与える授業を行います。子供たちが社会人と触れ合うことで、なりたい自分(職業)を考える機会となるよう、将来を支える子供たちの育成により関わっていきたいと考えております。</p>	
		
高井戸第四小学校 2016.1.26 「磁石の授業の様子」 牛の安全のために、磁石が使われていることを説明しています。 子供たちは、驚きの声をあげながら真剣に聞いています。	キッズジャンボリー 2016.8.17 「工作の様子」 磁石実験キットの中の磁石を使ってドラミング・キツツキを作成しました。 完成した作品に、皆思い思いの絵を描いています。	

中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>フジイコーポレーション株式会社</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>親子就労体験 “うわ～きっず”</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>“うわ～きっず”は、実際に稼働している工場に入り、弊社の社員として“ものづくり”に携わってもらう就労体験である。このプログラムのコンセプトは“リアルなビジネス体験”である。そのため、使用する除雪機はダミーではなく、お客様へ販売する除雪機である。作業については、弊社社員が1対1で指導にあたり、参加者には、部品集め、塗装、サブ組み、組立の中から2職場を体験してもらう。</p> <p>普段からものづくりに関わっている社員と接することで、仕事に対する態度や思いを学ぶことが出来る。また、小さな部品から除雪機が完成するまでの工程を確認できる。</p> <p>参加者には、仕事の対価として“うわ～きっずマネー（子供銀行券）”を支払う。働くことは価値のあることだと実感してもらうと共に、報酬を得ることの大変さも実感してもらう。“うわ～きっずマネー”の有効期限は当日限りとなるため、昼食は、この“うわ～きっずマネー”で購入してもらう。</p> <p>参加者は、このプログラムを通して、小学5年生の社会科の課題である工業についてより深く学ぶことが出来る。加えて、地場産業である“ものづくり(金属加工)”を身近に感じてもらい、将来の就職先として目を向けることが出来る。</p>	
		
<p>塗装エリアにて小学3年生の児童を社員が指導。初めての作業を真剣に行っている様子。保護者（青い作業服）と安全保安係が作業を見守っている。</p>	<p>除雪機の操作を体験する参加者たち。参加者には除雪機の製造工程に加わってもらった。小さな部品が様々な工程を経て、完成する製品。実際に動くことも確認してもらう。</p>	

中小企業の部

企業・団体名	エヒメ・ベンチャー・ネットワーキング	
プログラム名	DREAM BACK UPPER (ドリーム バック アッパー)	
活動の内容 (概要)	<p>「DREAM BACK UPPER」は、起業家と若者、起業家同士の交流を通じて若者の創業への機運を醸成するために、平成 26 年 4 月から様々な内容で、定期的を開催している。</p> <p>平成 26 年度は、第 1 弾として、約 50 人の起業家と約 100 人の学生等が一堂に会しての大座談会を開催して、起業への機運醸成を図るとともに、第 2 弾として、起業家と学生等がチームでビジネスプランを作成、発表するワークショップを開催し、起業へのより具体的なイメージを掴むきっかけづくりとした。</p> <p>平成 27 年度は、第 3 弾として、会社設立から模擬店の出店や決算書の作成等を 4 日間で実体験する起業体験を実施し、起業をより実践的かつ身近なものに感じてもらうことで、創業意識の一層の向上を図った。</p> <p>平成 28 年度は、第 4 弾として「集まれ！未来の起業人～パワー無限大」の開催を予定している。内容としては、県内企業を訪問して企業活動や意思決定、リーダーシップ等の実態を体感するとともに、訪問企業の社長から出された実際の経営上の課題等に対して、学生同士のチームで解決策を作成し発表するというものである。</p> <p>開催時期は平成 28 年 12 月を予定しているが、開催に先立ち、平成 28 年 6 月に会員企業と共同でプレイベント「Ehime Future adVenture」を開催した。</p> <p>なお、当団体は、設立以降、上記プログラムのほか、複数回にわたるミニ座談会等を通じて、起業家と学生との触れ合いの場を設け、起業家精神の涵養、創業予備軍の裾野拡大に努めている。</p>	
		
	<p>平成 27 年度開催の「DREAM BACKUPPER Round3」での一幕。 松山市最大の商店街である大街道にて臨時店舗「EVNマルシェ」を出店し、実際に企画した商品を販売することで、商売の面白さ、難しさを学んだ。</p>	<p>平成 28 年 6 月開催の「Ehime Future adVenture」での一幕。 将来的に始業を視野に入れている将来有望な学生 16 名が、(株)エイトワン及び(株)ファインデックスを訪問し、両社の社長が質疑に応じた（写真は(株)エイトワン代表取締役社長：大藪崇氏）</p>

優秀賞

<p>企業・団体名</p>	<p>NPO 法人新宿環境活動ネット</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>新宿の環境学習応援団『まちの先生見本市!』</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>持続可能な社会づくりに向けて、学校における環境学習の重要性が高まっている。特に、学校での学習内容を実生活や実社会と結び付け、次世代を担う子どもたちの「環境に関する幅広い職業観」「持続可能な生産と消費のマインド」を醸成していくことが希求されている。</p> <p>当 NPO は、地域の中で本業を通じて環境活動に取り組んでいる企業をはじめ、学生・区民・NPO・行政等と連携し、こうした環境の専門家を“まちの先生”として学校の学びに活用することで“本物から学ぶ豊かな環境学習”が実現できると考え、2001 年に新宿区の環境学習を支援する人材・プログラム情報バンクとして『新宿の環境学習応援団』を組織した。2016 年度は、57 団体が参加している。</p> <p>具体的には、“まちの先生”と“学校の先生”の情報交流を目指して、“まちの先生”が各立場から応援できる授業プログラム等をまとめた『“まちの先生”登録資料集』を毎年 1,500 部発行し、区内小中学校の全教員に配布している。また、年 1 回、区内小中学校を会場にキックオフイベント『まちの先生見本市!』を開催し、“まちの先生”が“学校の先生”や児童・生徒など約 1,000 名の来場者に対して、パネル展示による対話や模擬授業の披露等を行う機会を設けている。一連の活動により、区内小中学校で年間約 100 件の出前授業が実現し、地域・企業・学校と協働しながら、環境学習を通じたキャリア教育を推進している。</p>	
	<p>企業・学校・区民・NPO・行政等のマルチセクターの参画で、「幹事会」「実行委員会」を年間 3~5 回程度開催し、お互いの強みを活かした役割分担と意見交換をしながら事業を展開している。</p>	
	<p>地域の中でくらしや仕事の中で環境活動に取り組んでいる企業・学生・区民・NPO・行政等が“まちの先生”として学校の環境学習を支援することで、“本物から学ぶ豊かな環境学習”を目指している。当 NPO は、キックオフイベント開催や冊子作成、環境学習コーディネーターの配置により、環境学習を通じたキャリア教育を推進している。</p>	

<審査委員からの評価コメント>

- 学校とまちを結び付ける視点、意図、役割が明確であり信頼できるプログラムであり、地域と学校が協働してキャリア教育を提供する地元密着型のコーディネーションの実践として見本となる。
- 大手企業が多数参加することで、それらの企業のリソースが活かされ多様な環境対応の実態が理解できる。
- 地域で活動する大人や企業を子供や学校の応援団とすることにより、必然的に環境や働くこと生き方のヒントなどに気付く機会となっている。

奨励賞

企業・団体名	特定非営利活動法人グローバル人材開発センター
プログラム名	「グローバル人材」育成事業
活動の内容 (概要)	<p>教育の社会化を目指し、実践的で主体的な学びに力点を置いた PBL（課題解決型学習）を開発し、地域経済・地域社会の発展を支える情熱と、グローバルな視点で物事を考える能力をともに有する「グローバル人材」をオール京都体制で育成している。企業等から提示された自社の悩みや課題を、大学や学部、学年の違う 6 名程度の学生チームが調査や議論を経て解決策を導き出す。最終報告までに、学生は企業人からアドバイスや厳しい意見を複数回直接受ける。年度末に開催する成果報告会では、複数の学生グループが自身の学びを広く社会に発信するだけでなく、企業人と学生のトークセッションや交流会を開催している。当法人では PBL の開始から幾度となく繰り返すこうした対話の機会を大変重視しており、フランクにホンネで語れる「場づくり」を実践する事で、企業は新しい感性を取り入れ、学生はこれまで知らずにいた中小企業の魅力を自然に知っていく。又、こうして学生が身に着けた「主体性」「創造性」「コミュニケーション力」「行動力」といったアクティブな能力を証明するツールとして職能資格「GPM（グローバルプロジェクトマネジャー）」を作りあげ、昨年末に運用を開始した。企業にとっては「地域社会の将来を担い活躍する能力を備えている」という判断基準となり、学生にとっては PBL 受講の目標となっている。現在、中学生、高校生、大学院生にむけた PBL も少しずつ増えてきている。</p>



PBL 事例「新商品マーケティングプロジェクト」
京都の老舗企業、佐々木酒造(株)の新商品（ノンアルコール飲料）について、観光客を対象としたマーケティングを行い、学生目線の新しい発想で販売方法を提案した。社長自らが現場に立ち、熱心に対応する姿を見て、この「想い」が伝わるような提案をしたいと考えるようになり、学生ミーティングや調査にも熱が入った。

成果報告会第 2 部に開催した、トークセッションの様子。 企業人・経済団体・行政から 2～3 名、学生 2～3 名で 1 テーブルを囲み、1 つのテーマについて思いつく考えを付箋 1 枚に 1 つ、それぞれが記入し、項目ごとに模造紙に貼る。意見をまとめるのは学生ファシリテーターである。毎回熱い議論が繰り広げられる。

<審査委員からの評価コメント>

- 地元企業をリアルに理解するための PBL を取り入れた実践生・達成感が期待されるプログラムであり、中学・高校を対象を広げつつある点、公的機関・大学等との連携により地域全体の取組に高めようとしている点を評価。
- PBL プロセス全体に企業人が関わり、第三者に公開した成果発表会も開催されている。
- 話し合いを大切にされたプロセスにより、アナログではあるが人間性やあたたかみという雰囲気や醸成されるなか、学生間のコミュニケーションを主体に価値観形成が行われるプログラムとして特徴的。
- 他の地域からの視察も増えており、他の都道府県への波及効果を期待できる。

コーディネーターの部

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社 アジアンリザレクション</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>第二新卒やフリーターへ向けた IT キャリア育成プロジェクト「M'rais」(ミライズ)</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>M'rais (ミライズ)とは三年間で、業界未経験者を経験者にまで育て上げ、本人の資質にあった企業へ就職する事をゴールとした「キャリア育成プロジェクト」。</p> <p>技術研修を実習し、様々なプロジェクトを経験しながらスキルを身につけ、希望に沿った IT キャリアを構築する。在籍期間中は一定の給与も支給されるため、生活の心配をせずに自身のキャリアを育てる事に集中できる環境となっている。当社の「M'rais」(ミライズ)プロジェクトから多くの技術者を企業へ排出する事で、IT業界の技術者不足に貢献できるのではないかと期待している。「M'rais」(ミライズ)に参加すると、まずはITの基礎研修を一ヶ月間実施し、研修後は在籍する3年間で「自分がどういった資格を取得」し、「どういったスキルを身につけていくか」というITキャリアシートを作成する。自分がどういったITキャリアを構築していったら良いのかわからない人の為に、参考となるモデルケースをいくつも用意している。ITキャリアシートを作成する事で、目標を持ち、モチベーションを高く維持しながら、無駄なく充実した3年間となる。その後は作成したITキャリアシートに沿って、実際のプロジェクトに参画し、スキルと経験を身につけていく。また、プロジェクトに参画している間も、キャリアカウンセラーと定期的に相談しながらキャリアの方向性がズレないようにしている。</p>	
	<p>キャリアカウンセラーと自身のITキャリアについて面談を実施している風景</p> <ol style="list-style-type: none"> ① キャリアカウンセラーと自身のキャリアシートに対し、現在の進捗状態と今後の計画について相談する。 ② 参画しているプロジェクトで学んだ事、身につけた事について雑談を交えながら振り返る。 	
	<p>「技術研修」を実施している際の講義中の風景</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ネットワーク・通信分野の基本的な技術について講義形式にて教わる。 ② 不明点があれば随時質問をし、PCによる操作と併せて理解を深める。 	

コーディネーターの部

<p>企業・団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 WEBREIGO (ウェブレイゴ)</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>世界に開かれるキャリア教育</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>学生国際標準オリンピックに生徒が出場することを、毎年サポートしている。</p> <p>●目的 「標準」は学習指導要領にない分野だが、世界で標準化の必要性が叫ばれている。日本も2015年からIOCや周辺国に賛同し、学生に「標準」を推進、体験させるために出場している。 この国際大会において、生徒がメダルを獲得するために必要な思考力・判断力・表現力・行動力等を指導する。</p> <p>●何を学ぶか 「標準」は、学校の授業にないため、「標準」の知識、英語、プレゼンテーションの仕方、資料作成、工作における設計・物作りの仕方、アイデアの出し方等を学ぶ。日本のアピール動画を制作するため、映像・文化の授業を行い、地域の協力を得て撮影を実施している。 レセプションの民族衣装として浴衣等を着られるように実技指導をし、披露する伝統文芸等、踊りの指導を行う。</p> <p>●どう学ぶか 大会は素養の高さが要求されるため、アクティブラーニング方式で生徒の素の力を引き出す体得指導を実施。</p> <p>●何ができるようになるか 標準化製品をチームで時間内に制作できる。 設計図を基に標準化についてプレゼンテーションができる。 世界に友人ができる。 日本のアピール動画が制作できる。</p> <p>●持続可能な活動に向けて レポートを提出し、国へ報告会を実施している。 参加希望の学校や学園祭で報告し、特色ある報告会を実施している。 ウェブで世界に情報を発信・公開しつつ、次年に参加する生徒のために支援に参加している。</p>	
		
<p>2016年、国際標準オリンピックにおいて産学連携・共同により、銅メダルを獲得した。</p>	<p>大会の内容は、制限時間内に提示された部品を使用し、標準化されたものを作る。設計図を描き、製品を制作し、その制作物のメリット・デメリットを上げる。さらに課題を標準化し、プレゼンテーションをするというものである。画像は日本代表チームに対して、国土交通省での勉強会の様子である。</p>	

第7回「キャリア教育アワード」募集要項

1. キャリア教育アワードの趣旨

- ▶ 新興国の台頭など企業の競争条件の激化に伴い、若者に求められる職務遂行能力が高度化していく傾向にある中、職業人としての資質や能力の向上、「働くこと」への関心・意欲の高揚を通じた学習意欲の向上などを目的とした「キャリア教育」を、子供・若者たちに対し早期から行うことの重要性が高まっています。
- ▶ 学校教育においては、基礎的な知識の定着やスキルの習得だけでなく、学習内容と実社会とを関連づけ、自己の将来について考える「キャリア教育」が推進されていますが、実施にあたっては、企業・地域の協力が不可欠です。なぜなら、企業・地域の人々が「本物の社会」「本物のシゴト」を教えることが、子供たちの興味・関心を惹きつけ、「働くこと」に対する価値観の醸成、学習意欲向上などにつながっていくからです。
- ▶ 近年では、次世代を担う若者育成のため、企業や地域社会が積極的に教育支援活動を行う事例が増加してきていますが、これらの活動は、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）としての貢献活動にとどまらず、企業側にも様々な効果をもたらしています。実際に取り組んだ企業等からは、自社のブランド価値の浸透や、若者向けの製品やサービスの品質向上といった直接的なメリットもさることながら、活動に参加した社員が自己の仕事の内容ややりがいを子供に伝えることを通して、自らの仕事の価値を再認識するという、社員自身の人材育成にも効果があるといった効果や、全社的に取り組むことで企業内のコミュニケーションが活発化するといった効果が報告されています。
- ▶ これからの社会を支える子ども・若者に対する社会的投資としての教育への参画活動をさらに促進する観点から、企業等における教育支援活動の先進的な取組を表彰し、その成果を広く社会で共有することを目的として、昨年度に引き続き第7回「キャリア教育アワード」を開催します。是非御応募ください。

◆キャリア教育とは◆

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である。

（平成23年1月中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」）

2. キャリア教育アワードの概要

キャリア教育アワードは、企業や団体による教育支援の取組を奨励・普及するため2010年度に創設された表彰制度です。

第7回キャリア教育アワードは、下記要領に従い実施いたします。

(1) 応募期間

2016年7月1日（金）～2016年10月21日（金）（必着）

(2) 応募対象

小学校から大学・大学院段階の子ども・若者を対象としてキャリア教育に取り組む企業・経済団体等及び専門的な知識、経験に基づいたキャリア教育プログラムやマッチングサービス等を提供するコーディネーター機関とする。

- ※ 学校教育に対する支援活動に限らず、放課後や休日を利用した学校外における教育支援活動も含まれます。
- ※ 職場体験・インターンシップ受け入れを行っている企業・団体も積極的に募集します。
- ※ キャリア教育の実践例としては、「職場体験活動」や「職業人による講話」などが広く知られています。しかし、例えば、学校における国語・算数・数学・英語などの教科教育や、環境教育・食育・金融教育・人権教育などに代表される個別テーマ性の高い教育活動についても、それらを通して課題解決能力、キャリアプランニング能力などの社会的・職業的自立に向けた力を育成するための意図的な働きかけがなされていれば、それらの活動は「キャリア教育」としても重要な機会となります。
- ※ 応募対象となるか判断が困難な場合は、事務局にお問い合わせください。

(3) 応募資格

- 応募者は、取組を行っている主たる事業者であること。
- 2016年4月1日以降にキャリア教育を実施した企業・団体であること。なお、2016年3月31日以前から継続して活動している場合も応募可能です。審査の対象は原則として2016年4月1日以降の活動となりますが、2016年度の取組が実施中で、前年度と同様に実施する予定である場合には、2015年度の取組内容を審査対象とします。
- 活動内容の公表が可能な企業・団体であること。
- 学校教育におけるキャリア教育の取組を支援している事例の場合には、当該学校から応募に係る一切の事項について了承を得ていること。
- 応募企業・団体が表彰を受ける場合、その代表者又は代表者に準ずる者が2017年1月17日（火）に開催する表彰式（東京）に参加することが可能な企業・団体であること。
- 前年度までに、応募・受賞の実績があっても構いません（ただし最優秀賞受賞者は除く）。

(4) 賞の構成

各企業・団体の取組の主体により3部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）より構成することとし、審査委員会による審査により、大賞、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を決定します。

【審査部門】

① 大企業の部

キャリア教育に取り組む大企業・団体（従業員数が300人超）

② 中小企業の部

キャリア教育に取り組む中小企業・団体（従業員数300人以下）

※大企業のグループ企業については、単独企業としての取組については企業規模に応じて審査部門を判断するが、他グループ企業の体制・施設等を活用してグループとして取り組んでいる場合については、①大企業の部に応募する。

③ コーディネーターの部

複数の企業や学校が行うキャリア教育を、専門的知識・経験に基づいたキャリア教育プログラムやマッチングサービス等を提供することで支援するコーディネーター機関

※商工会議所・商工会・中小企業団体・商店街・協議会等が会員企業を取りまとめてキャリア教育支援活動を実施している場合は、②中小企業の部に応募する。

【賞の構成】

大賞	最優秀賞のうち、総合的に最も優秀と認められる取組
最優秀賞 (経済産業大臣賞)	各部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）において最も優秀と認められる取組
優秀賞	各部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）において優秀と認められる取組
奨励賞	企画性や教育効果に卓越した点があり、今後の継続的な取組により、一層の発展が期待される取組

(5) 審査基準

企業等による継続的・効果的なキャリア教育支援の取組を評価する観点から、応募された取組について以下の項目により評価を行います。

● 大企業の部・中小企業の部

審査基準	審査項目
・継続性 長期にわたり運営していくため、継続的に改善するサイクルが実行されているか	授業実施前に計画（実施体制、スケジュール等）は練られているか
	学習者・学校に対する感想文・アンケート調査等を通じた評価・分析を踏まえ改善を行っているか
	事業の継続に必要な実施体制が整えられているか
	プログラムの改善や支援者である社員や関係者の意欲向上に役立てるために、取組に参加した社員や関係者等の意見・感想を把握し改善につなげているか
・普及性 企業・団体の活動規模に応じた展開をしているか	企業・団体の活動規模に応じ、より多くの学校（または地域）で実施しているか
・汎用性 教育ニーズに対応できる取組となっているか	実施時間数に変異性・柔軟性はあるか
	【学校教育内での活動】学校側と学習目標・内容のすりあわせを行っているか 【学校教育外での活動】地域の課題や学習者の学習課題を踏まえた内容となっているか
・企画性 プログラムの内容に工夫があるか（目標設定、授業の進め方等）	プログラムによって育成したい能力など目的・目標が定まっているか
	目的・目標に対して、プログラム内容・手法は適切か（成長段階に応じた内容・手法になっているか、学習者の集中力を引きつける内容となっているか等も勘案）
	核となるプログラム(体験学習等)の効果を高めるための事前・事後学習を行っているか（学校と協議の上、学校側にて行っている場合も含む）
	チームや多様な立場の人々と協力・コミュニケーションする内容が盛り込まれているか
	学んだ内容をワークシートやレポート・プレゼンテーションにより発表する工夫がされているか
成果物・成果発表等に対するフィードバックを行う機会が用意されているか	

・キャリア教育としての教育効果 授業内容が、社会的・職業的自立に向けた力の育成支援となっているか	自己の可能性・適性への気づき、「将来の生き方」への興味関心・意欲を喚起する内容となっているか
	社会の実情を知り、学びの必要性を感じる内容となっているか
	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）等、多様な人々と協働して仕事を行っていくために必要な能力の育成に資する内容となっているか

● コーディネーターの部

審査基準	審査項目
・有効性 職業的自立に向けた教育効果の向上に貢献する支援サービスを提供しているか	学校および企業、地域社会のニーズや、活用できる地域資源を踏まえたプログラムを開発できているか
	一人一人の社会的・職業的自立に向けて、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）等、多様な人々と協働して仕事を行っていくために必要な能力や態度を育てる教育を、教育対象となる各段階の学生・生徒・児童に対して適切に実行できているか
	事前・事後学習、フィードバックを行うなど、体験で得た知識や経験を深めるためのプログラム上の工夫がなされているか。
	プログラムを実施した際の児童・生徒等、教員、協力者の意見を参考にしながら実体に即したプログラム案へと改良する等、継続的に改善するサイクルを実行して取組みの向上をしているか
・支援実績 数多くの企業・学校・若者に支援サービスを提供しているか	より多くの企業・学校・若者に支援サービスを提供しているか
・産学関係構築への貢献 産学関係者が相互理解を深め、協働するための関係構築に貢献しているか	プログラムの計画に沿って、支援する人材・企業と、時間や場所、必要物品、事前学習等の実施に関する連絡調整を適切に行っているか
	産学教育関係者の相互理解を深め、効果的な教育づくりを持続的に推進するための議論の場や、勉強会等を設けているか
	産学協働の持続的な関係作りや、その拡大に向けて効果的な普及・啓発活動を推進しているか

（６）審査方法

提出いただいた応募書類への記載内容を対象として、学識経験者、経済団体関係者、教育関係者等有識者から構成される審査委員会において審査します。必要に応じ、事務局によるヒアリングにご協力いただく場合があります。

（７）スケジュール

応募受付期間 2016年 7月1日（金） ～ 10月21日（金）必着
 審査結果通知 2016年 11月下旬
 表彰式 2017年 1月17日（火）

※「文部科学大臣表彰（キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰）」「キャリア教育推進連携表彰」と併せて表彰式を行います。

（８）問い合わせ先

キャリア教育アワード2016事務局
 （キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会）
 担当：小寺・松倉
 〒167-0051
 東京都杉並区荻窪5-28-3 1階1号
 TEL 03-3392-1988
 FAX 03-5335-7366
 E-mail award@human-edu.jp

3. 応募方法

(1) 応募書類

応募書類は、個人情報を除いた上で、活動内容と写真を事例集に掲載し、Webや表彰式などで配布する事例集などで公表いたします。このため、写真については、撮影者、被写体の許可が得られているものをご提出ください。電子媒体の準備が難しい場合は、事務局までお問い合わせください。

● エントリーシート（必須）

下記 URL よりエントリーシートをダウンロードし、必要事項を御記入の上、コピー 2 部及びデータ保存された電子媒体 1 部をご提出ください。

URL: <http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/award.html>

● 活動資料

① 活動状況が分かる写真

写真は 2 種類をエントリーシートへ貼付け、またその写真データを jpg 形式にて電子媒体に入れてご提出ください。

ファイル名は企業・団体名とし、複数写真がある場合は「-数字」をつけてください。

② その他活動内容や成果等が分かる参考資料

参考資料は 3～5 枚程度として下さい。（形式は問いません）

(2) 応募方法

● 3. (1) で示した必要書類を、キャリア教育アワード事務局まで郵送してください。FAX や、E-mail 等による提出は原則として受けられません。

● 応募締切 2016年10月21日（金） 必着

● 応募書類送付先

〒167-0051

東京都杉並区荻窪 5-28-3 1階1号

キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

キャリア教育アワード 2016 事務局 宛

(3) 注意事項

● 提出いただいた資料類、写真類は返却いたしませんので、あらかじめ御了承ください。

● 審査に関する問い合わせには応じられません。

● 応募いただいた団体名や活動内容を、新聞、雑誌、インターネット等で公表することがあります。また報道関係者等からの取材にご協力をお願いすることがあります。

(4) 個人情報の取り扱いについて

● 応募者の個人情報は、審査及び運営に必要な範囲内で利用し、第三者へ提供することは一切ありません。応募者の同意なく、利用目的を越えて利用することはありません。

■ 「キャリア教育アワード」受賞企業・団体一覧①

年度	賞の種類		団体名		
平成22年度	第1回	最優秀賞	・パナソニック株式会社		
		小宮山審査委員長賞	・横須賀商工会議所		
		優秀賞	・会津若松商工会議所青年部 ・株式会社シマノ ・新生フィナンシャル株式会社 ・日本アイ・ピー・エム株式会社		
		審査委員特別賞	・テックエンジニアリング株式会社		
平成23年度	第2回	大賞・最優秀賞	地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・福井商工会議所青年部		
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	普及型キャリア教育部門 ・シャープ株式会社、NPO法人気象キャスターネットワーク 地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社西島製作所		
		優秀賞	普及型キャリア教育部門 ・株式会社ウィザス ・清川メッキ工業株式会社		
			地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社熊谷組		
			地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・株式会社教育と探求社		
		審査委員特別賞	・千葉市・千葉大学教育学部 ・西尾信用金庫		
平成24年度	第3回	大賞・最優秀賞	地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・練馬区・練馬アニメーション協議会		
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	普及型キャリア教育部門 ・シャープ株式会社 地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社ケミカル山本		
		優秀賞	普及型キャリア教育部門 ・花王株式会社 ・ソニー生命保険株式会社		
			地域密着型キャリア教育部門 ・愛媛県中小企業家同友会		
			地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・公益社団法人太田青年会議所 ・東京商工会議所		
		奨励賞	普及型キャリア教育部門 ・一般社団法人日本チャレンジ教育協会 ・株式会社読売新聞東京本社		
			地域密着型キャリア教育部門 ・有限責任あずさ監査法人 ・SBエナジー株式会社 ・積水化学工業株式会社		
		平成25年度	第4回	大賞・最優秀賞	中小企業の部 ・岩村田本町商店街振興組合
最優秀賞 (経済産業大臣賞)	大企業の部 ・ソニー生命保険株式会社 地域企業協働の部 ・アイシン精機株式会社・アイシングループ				
優秀賞	大企業の部 ・アクセンチュア株式会社コーポレート・シチズンシップ 「若者の就業力・起業力強化」チーム ・株式会社ダスキン				
	中小企業の部 ・特定非営利活動法人G-net(ジーネット) ・橋本産業株式会社				
	地域企業協働の部 ・株式会社Campanula(カンパニユラ) ・特定非営利活動法人鳳雛塾				
奨励賞	大企業の部 ・積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクト ・一般社団法人ディレクトフォース ・株式会社野村総合研究所				
	中小企業の部 ・特定非営利活動法人国際社会貢献センター				
	地域企業協働の部 ・ジョブスタディ(運営事務局:コクヨ株式会社) ・中高生夢チャレンジ大学実行委員会				
平成26年度	第5回			大賞・最優秀賞	中小企業第2部(協働の部) ・かわさきマイスター友の会
				最優秀賞 (経済産業大臣賞)	大企業の部 ・MSD 株式会社
		中小企業第1部(単独の部) ・特定非営利活動法人地域活動支援センターぶろぼの ぶろぼのスコラ事業部			
		コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人アスクネット			
		優秀賞	大企業の部 ・ダイキン工業株式会社 ・株式会社日立製作所 ユニバーサルデザイン出前授業プロジェクトチーム		
			中小企業第1部(単独の部) ・スリール株式会社		
			中小企業第2部(協働の部) ・瀬戸キャリア教育推進協議会		
			コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム		
		奨励賞	大企業の部 ・SCSK株式会社 ・日本ビューレット・バックカード株式会社 ・株式会社フジテレビジョン		
			中小企業第1部(単独の部) ・折り紙ヒコーキ協会(事務局:株式会社キャストム) ・一般社団法人 Summer in JAPAN ・株式会社トモノカイ		
			中小企業第2部(協働の部) ・リエゾン・テートル		
			コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人企業教育研究会 ・株式会社キャリアリンク ・株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ		

※平成23年度より、最優秀賞(経済産業大臣賞)受賞者のうち、総合的に最も優秀と認められる企業・団体等に「大賞」を授与している。

■ 「キャリア教育アワード」受賞企業・団体一覧②

年度	賞の種類		団体名		
平成27年度	第6回	大賞・最優秀賞	大企業の部	・積水化学工業株式会社	
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	中小企業の部	・ダイソン株式会社	
			コーディネーターの部	・有限会社オーシャン・トゥエンティワン	
			大企業の部	・日本生命保険相互会社	
		優秀賞	中小企業の部	・一般社団法人アルパ・エデュ ・公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会	
			コーディネーターの部	・キャリア教育研究所ドリームゲート	
	奨励賞		大企業の部	・株式会社ユニクロ ・株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、 株式会社三菱東京UFJ銀行	
		中小企業の部	・一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会 ・京都商工会議所 環境・エネルギー特別委員会		
		コーディネーターの部	・株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート		
	平成27年度	第7回	大賞・最優秀賞	大企業の部	・株式会社博報堂
			最優秀賞 (経済産業大臣賞)	中小企業の部	・認定特定非営利活動法人キーパーソン21
				コーディネーターの部	・一般社団法人九州インターンシップ推進協議会
優秀賞		大企業の部	・キャノングループ内8社 ・富士通株式会社		
		中小企業の部	・株式会社アトリエテンマ		
		コーディネーターの部	・一般社団法人ドリームマップ普及協会 ・特定非営利活動法人新宿環境活動ネット		
奨励賞		大企業の部	・東京ガス株式会社 ・大日本住友製薬株式会社		
		中小企業の部	・東京商工会議所 ・徳島県信用保証協会 ・有限会社せれくと		
		コーディネーターの部	・特定非営利活動法人グローバル人材開発センター		